

構造特記仕様

- 特記無き限り構造詳細は、下記によるものとする。本工事に関係なき項目は、適用しない。
- コンクリートの調査養生試験及び型枠の養生脱型については、建築工事標準仕様書（令和4年版）によるものとする。

1 使用材料

○ 鉄筋 JIS-G3112 SD295（規格品） — D10,D13,D16

○ コンクリート

適用箇所	基礎・地中梁	上部躯体	捨コンクリート	土間コンクリート
種類	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
設計基準強度	21 N/mm ²	21 N/mm ²	18 N/mm ²	18 N/mm ²
指定スランプ	18 cm	18 cm	18 cm	18 cm

外構用コンクリート

種類	適用箇所	設計基準強度	指定スランプ
普通コンクリート	外構工事	18 N/mm ²	18 cm

○コンクリートブロック JIS-A5406 ○種一基本ブロック

2 基礎

○ 形式、工法 直接基礎 布基礎形式（基礎下 表層改良）

○ 地耐力 80 kN/m²（長期）

3 地業、土間

○ 地業 ・基礎下端 捨てコンクリート厚 50 砕石厚 150
・地中梁下端 捨てコンクリート厚 50 砕石厚 100
・土間下端 砕石厚 100

○ 土間配筋 ・一般土間 土間コンクリート厚 150 D10-@200SC（一般土間）
150 D13-@200SC（機械室土間）

配筋要領

1 一般事項

○ 鉄筋記号

径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	
記号	・	×	●	○	○	○	

○ 鉄筋の折り曲げ標準

鉄筋末端部				鉄筋中間部			
使用箇所	折曲げ角度	形状	折曲げ内の寸法 (D)	使用箇所	折曲げ角度	形状	折曲げ内の寸法 (D)
柱筋・梁筋等の構造主筋	180°		D16 以下 D = 3d 以上	あばら筋・帯筋	90° 以下		D16 以下 D = 4d 以上
あばら筋・帯筋	135°		D16 以下 D = 3d 以上	スラブ筋・壁筋			D16~D25 D = 6d 以上
スラブと同時に打込むT形及びL形梁に用いるU字形あばら筋の場合にのみ用いる	90°			上記以外の鉄筋			D25 以上 D = 8d 以上

鉄筋末端部のフック
下記の場合は、鉄筋末端部にフックを設ける。
・あばら筋、帯筋及び巾止め筋
・柱出隅部分の鉄筋（重ね継手の場合のみ）
・梁（地中梁を除く）の出隅部分の鉄筋（重ね継手の場合のみ）
・煙突の鉄筋
・杭基礎のベース筋

○ 鉄筋のかぶり厚さ

基礎	地中梁	梁
壁・床	地下壁	

(注) ・煙突等で高熱を受ける部分のかぶり厚さは、70 とする。
・打渡し仕上部分で、設計図に指示の無い場合は、構造断面を下記の値増打とする。
屋外 = 25（床版、煙突は除く）
屋内 = 25（同上）
特に必要性が無いと認めた場合は除く

○ 鉄筋相互のあき

梁の主筋が二段筋の時

a : 1.5d 以上かつ 32 以上
d : 鉄筋呼び名に用いた数値
D : 鉄筋の最大径

○ 鉄筋の継手形式、定着長及び継手の長さ

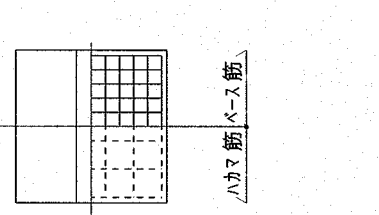
・全て重ね継手とする。

	定 着 長 さ			重ね継手の長さ
	一 般 (L2)	下 端 筋		
		小 梁	床 スラブ 屋根スラブ	
フックなし	35d 以上	25d 以上	10d 以上かつ	40d 以上
フックあり	25d 以上	15d 以上	15cm 以上	30d 以上

・末端のフックは定着及び重ね継手の長さに含まない。
・直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の公称径とする。

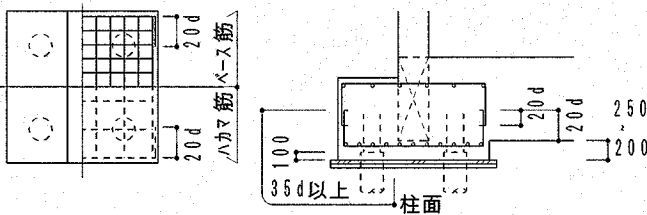
2 基礎配筋

○ 直接独立基礎



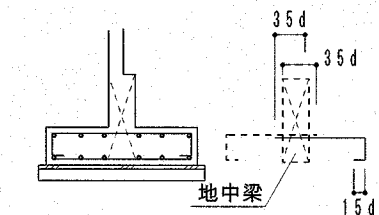
・特記無き限り斜筋はないものとする。

○ 杭基礎

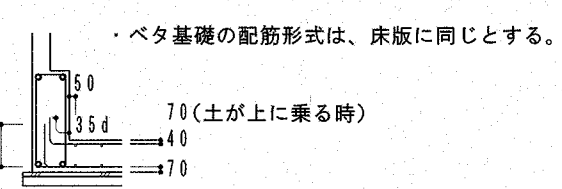


・ベース筋のかぶり厚さは杭頭より 70 mm とする。

○ 布基礎



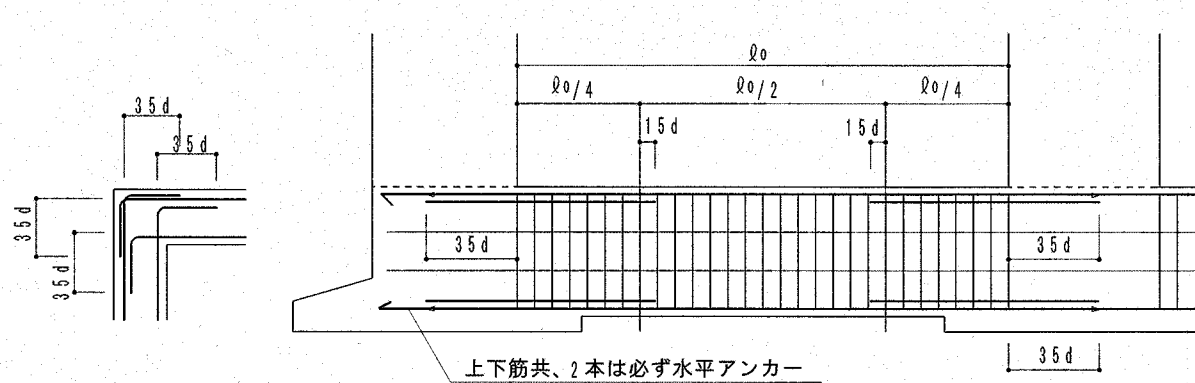
○ ベタ基礎



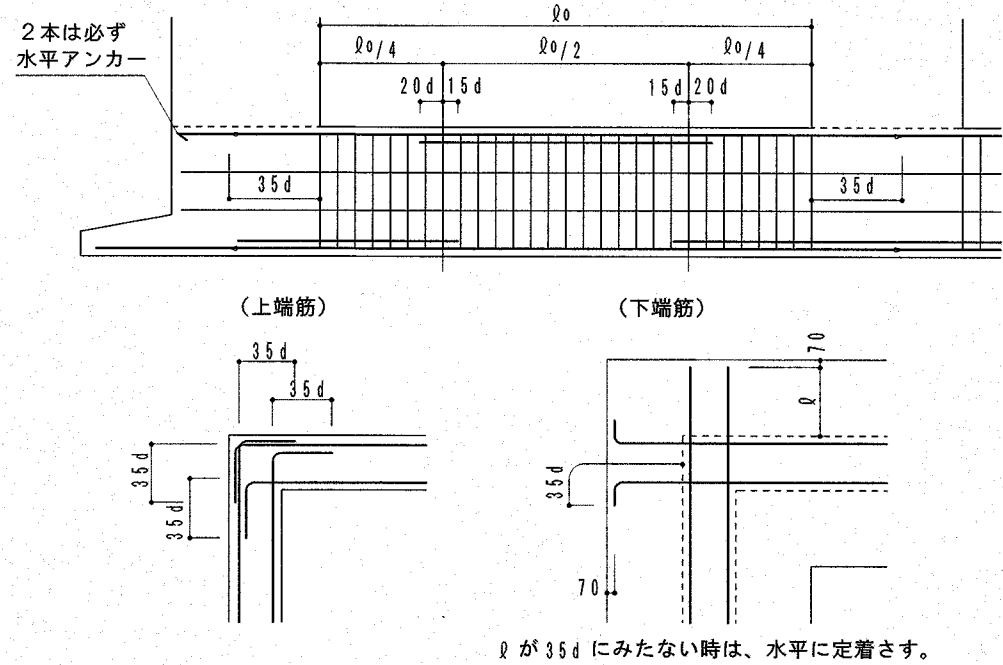
・ベタ基礎の配筋形式は、床版に同じとする。

3 地中梁配筋

○ 独立基礎



○ 布基礎、ベタ基礎



ℓ が 35d に満たない時は、水平に定着さす。

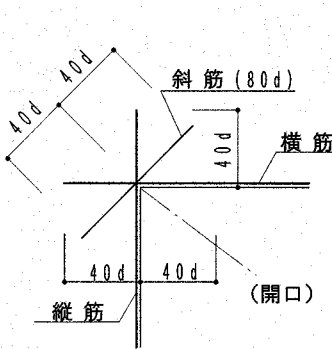
4 壁配筋

○ 壁配筋表

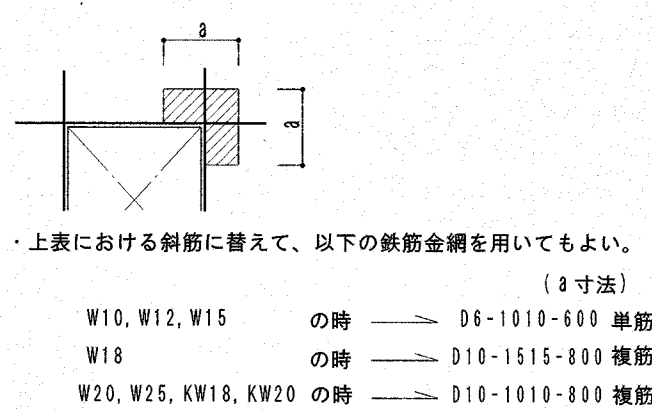
壁符号	主筋		開口補強筋 (h _e > 1m)			(h _e ≤ 1m)
	縦筋	横筋	縦筋	横筋	斜筋	縦横筋
W10, W12	D10-@200 S	D10-@200 S	1-D13	1-D13	1-D13	1-D13
W15	D10-@200 S	D10-@200 S	2-D13	2-D13	1-D13	1-D13
W18	D10-@200 D	D10-@200 D	2-D16	2-D16	2-D13	2-D13
W20, W25	D10-@200 D	D10-@200 D	2-D19	2-D19	2-D16	2-D16
KW18	D13-@200 D	D10-@200 D	2-D19	2-D19	2-D16	2-D16
KW20	D13-@200 D	D10-@200 D	2-D19	2-D19	2-D16	2-D16

・巾止め筋は、D10-@1000 ㊦D1

○ 開口補強筋定着

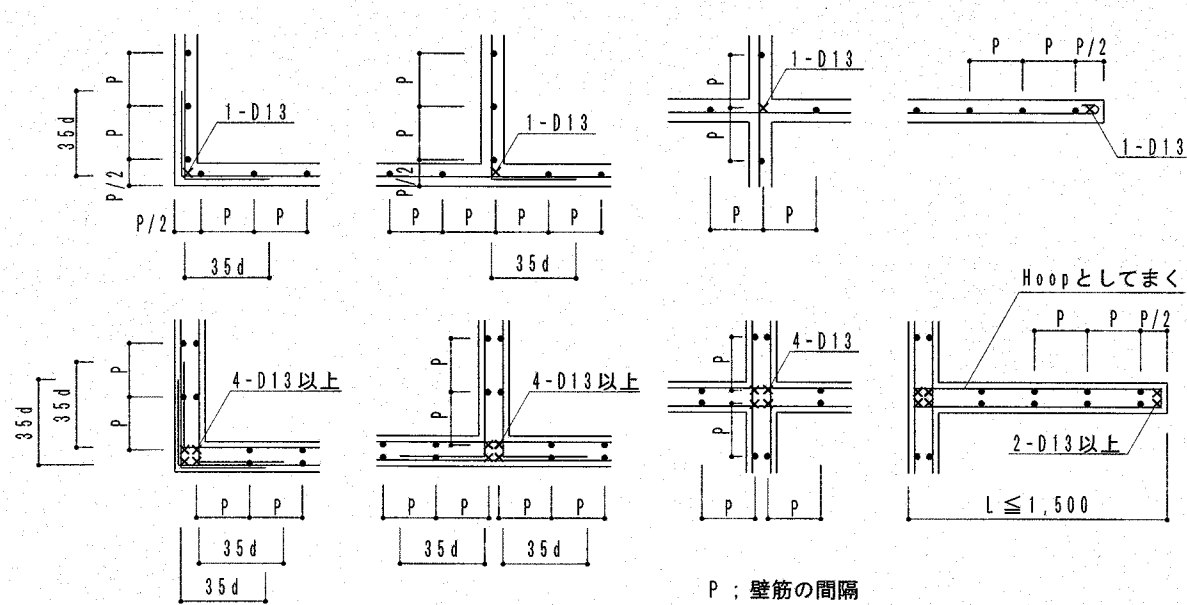


○ 鉄筋金網による補強の場合



・上表における斜筋に替えて、以下の鉄筋金網を用いてもよい。
(3寸法)
W10, W12, W15 の時 — D6-1010-600 単筋
W18 の時 — D10-1515-800 複筋
W20, W25, KW18, KW20 の時 — D10-1010-800 複筋

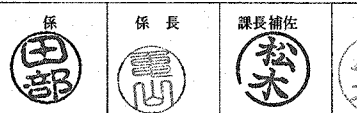
○ 壁交差部及び端部



P ; 壁筋の間隔

特記

高知市 都市建設部 公共建築課



工事名称 第四小学校プール改築工事

図面名称 構造特記仕様書ー（1）

Draw

Check

作成年月日

\$j

縮尺

株式会社若竹まちづくり研究所

開設者 一級建築士 佐藤八尋 第115410号
管理建築士 一級建築士 小松道就 第223530号

図面番号

B-01

Figure 1 illustrates the reinforcement details for beam-column joints, categorized by span length L relative to $35d$.

(a) $L < 35d$

- The main horizontal reinforcement is anchored with a length of $35d$ (全主筋水平アンカー 35d).
- The spacing of vertical bars is $P/2$.
- The spacing of stirrups is P .
- The development length of the main reinforcement is $R_0/4$.
- The span length is L .

(b) $L \geq 35d$

- The main horizontal reinforcement is anchored with a length of $35d$.
- The spacing of vertical bars is $P/2$.
- The spacing of stirrups is P .
- The development length of the main reinforcement is $R_0/4$.
- The span length is L .
- The span length is also labeled as R_0 (梁間内のり寸法).

Notes:

- P : 壁筋及び腹筋の間隔 (Spacing of wall reinforcement and stirrups).
- 2本は必ずアンカー (2 bars must be anchored).
- 第1あばら筋は、壁面より配筋する。 (The first stirrup is placed from the wall face).

（単独梁両端）
（最終端）

（内端）

（ ）内は単独梁の場合

l_0 : 梁間のり寸法

Figure 1 consists of two schematic diagrams, (a) and (b), illustrating the bending of a thin-walled profile. Diagram (a) shows a profile bent at a 90-degree angle with a radius of 3.5d, and a 180-degree bend. Diagram (b) shows a profile bent at a 135-degree angle with a radius of 8d.

Figure 1 illustrates the reinforcement details for a reinforced concrete slab. The top part shows a cross-section of the slab with dimensions: 35d (effective depth), 50 (top concrete cover), 150 (bottom concrete cover), 15d (development length), and 70 (bottom concrete cover). The bottom part shows a plan view of the slab with dimensions: 150, 15d, 70, and 15d. The plan view also shows the reinforcement layout with D13 bars and a grid of D10 bars. The plan view is divided into three sections: 1/4, 1/2, and 1/4. The total width is labeled as 1/4 (短辺内のリスパン). The plan view also shows the reinforcement layout with D13 bars and a grid of D10 bars. The plan view is divided into three sections: 1/4, 1/2, and 1/4. The total width is labeled as 1/4 (短辺内のリスパン).

[illegible]

Figure 1 shows two types of reinforcement connections:

- (a) Lap connection: Shows two reinforcement bars of diameter $D13$ overlapping by a length of $45d$. The bars are bent at an angle h to provide additional anchorage. The total length of the connection is 300 . The thickness of the concrete slab is t . The condition $h \leq t/2$ is specified.
- (b) Staggered connection: Shows two reinforcement bars of diameter $D13$ connected by a staggered lap. The staggered lap length is $45d$. The bars are bent at an angle h . The total length of the connection is 300 . The thickness of the concrete slab is t . The condition $2t > h > t/2$ is specified.

(杭頭一般)

100

D (杭径)

D=300 Ø 4-D13
 D=350~400 Ø 6-D13
 D=450~600 Ø 8-D13
 7~7' D10-@100

(杭頭が下がった時)

基礎底

550

60°

1.5 × D

100 × 100

D (杭径)

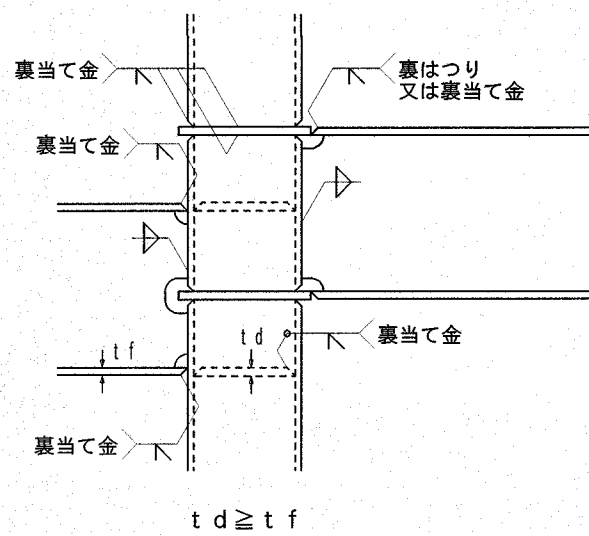
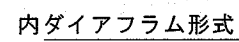
・杭頭切断は、バールカッター使用。

Technical drawings of reinforcement details for a slab. The top drawing shows a cross-section of a slab with a central circular reinforcement (D13) and a rectangular reinforcement (D13) at the bottom. Dimensions include 175mm for the top and bottom reinforcement, and 3 times the diameter (3 x Ø) for the central reinforcement. The bottom drawing shows a side view of the slab with a central circular reinforcement (D13) and a rectangular reinforcement (D13) at the bottom. Dimensions include 40d for the top and bottom reinforcement, and 100mm for the central reinforcement. The right drawing shows a detail of the reinforcement bars (D13) with dimensions 150mm for the top and bottom reinforcement, and Ø ≤ D/3 for the central reinforcement.

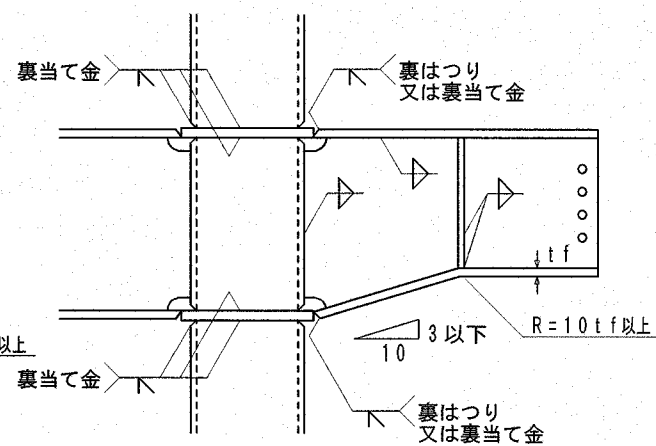
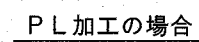
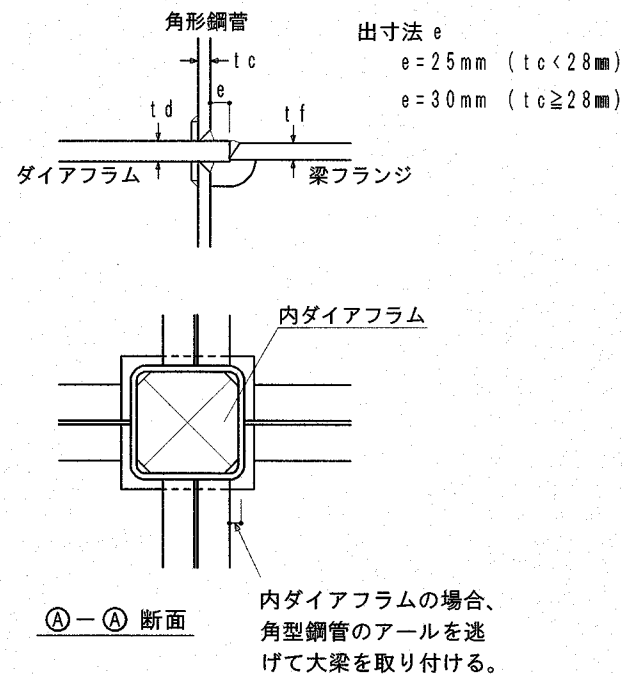
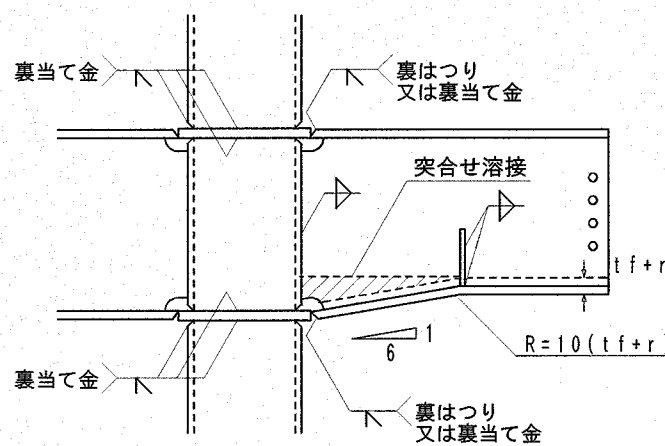
貫 通 孔 徑		縱 筋	橫 筋	斜 筋
$\varnothing = 100$		2 - D13	—	2 - D13
$100 < \varnothing \leq 150$	$\varnothing < D/5$	2 - D13	2 - D16	2 - D13
	$D/5 < \varnothing \leq D/3$	2 - D13	2 - D16	2 - D13
$150 < \varnothing$	$\varnothing < D/5$	2 - D13	2 - D16	2 - D16
	$D/5 < \varnothing \leq D/3$	4 - D16	2 - D19	2 - D19

角形鋼管柱

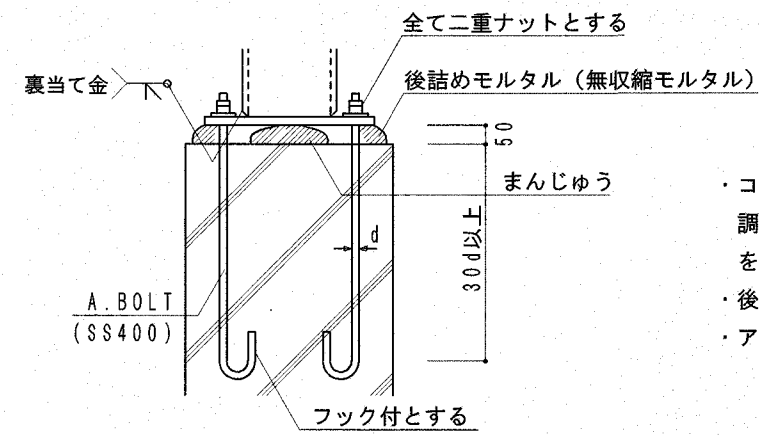
通しダイヤグラム形式



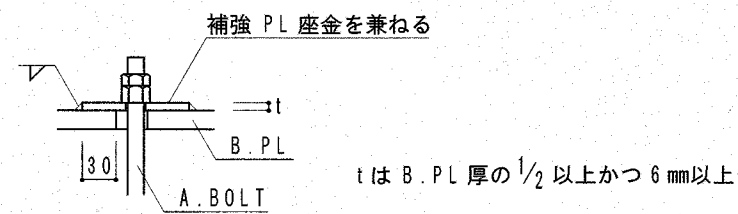
H鋼加工の場合



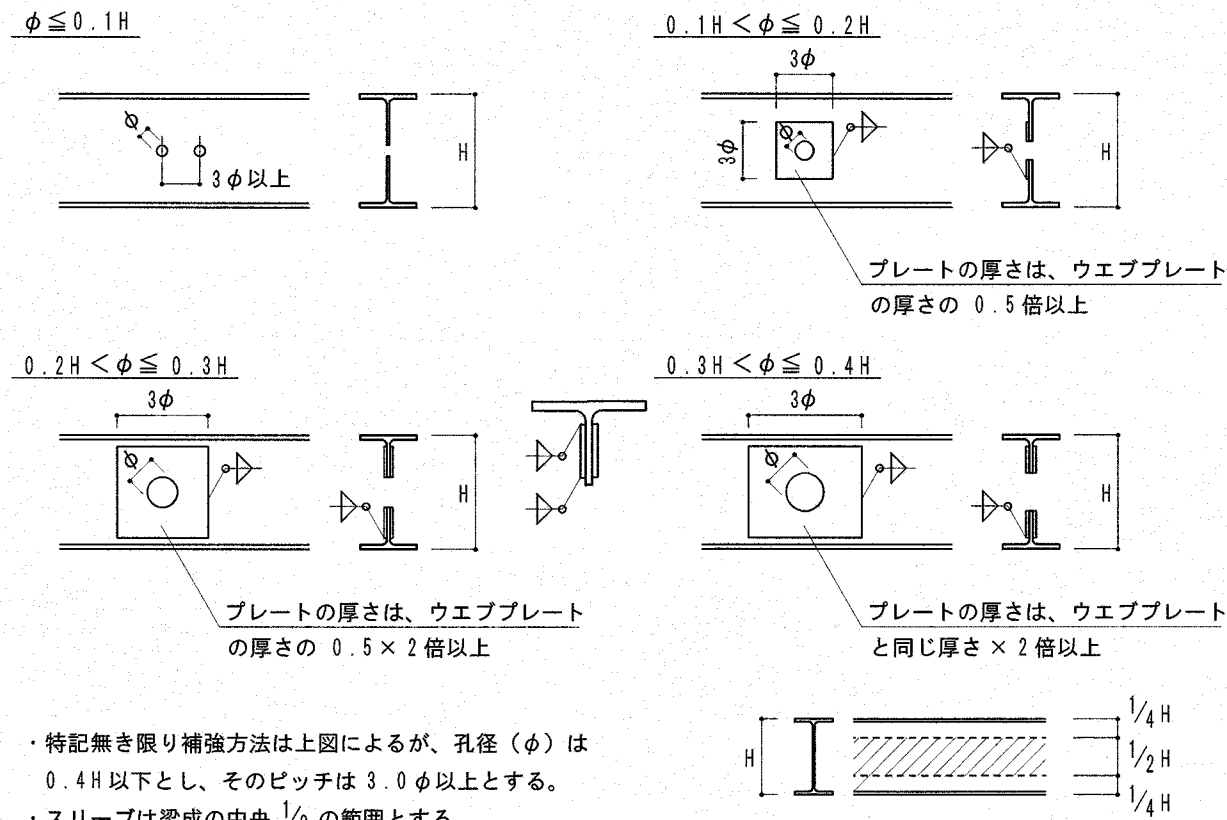
一般の場合



アンカーボルトの施工に誤差がある場合



○ 梁貫通孔補強



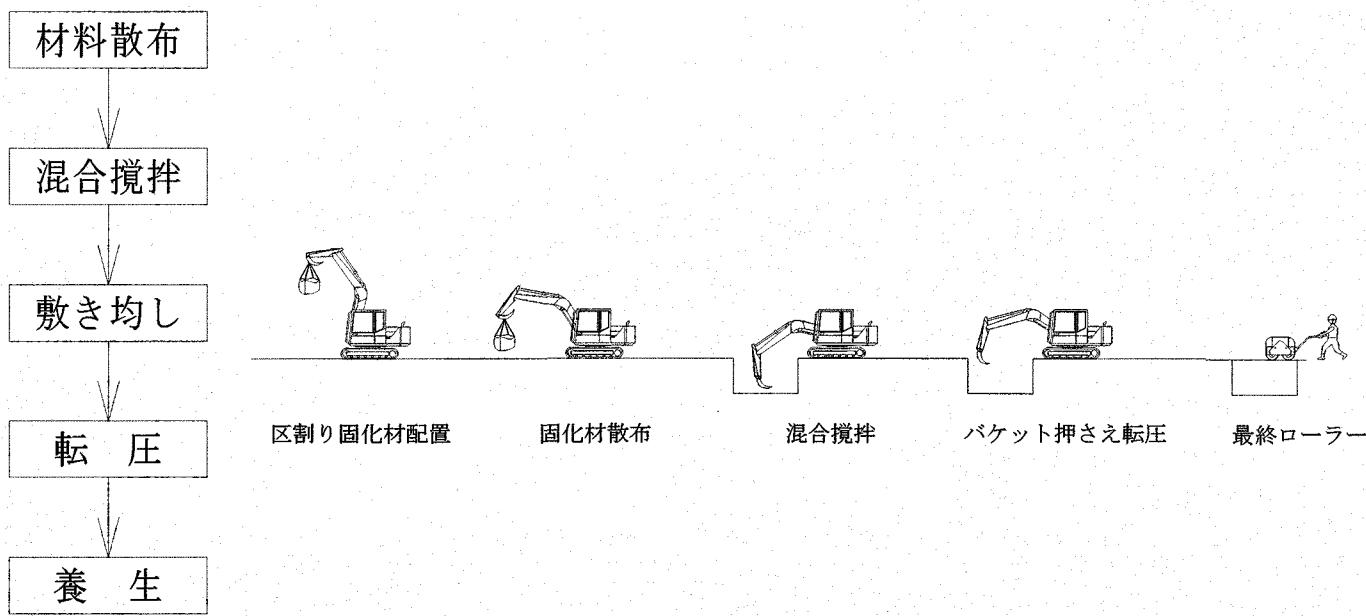
- ・特記無き限り補強方法は上図によるが、孔径(ϕ)は $0.4H$ 以下とし、そのピッチは 3.0ϕ 以上とする。
- ・スリーブは梁成の中央 $\frac{1}{2}$ の範囲とする。

特記	高知市 都市建設部 公共建築課				工事名称 第四小学校プール改築工事	Draw	Check	作成年月日 \$j\$	 株式会社若竹まちづくり研究所 開設者 一級建築士 佐藤八尋 第115410号 管理建築士 一級建築士 小松道就 第223530号	図面番号 B-04
	 係長  課長補佐  課長	図面名称 構造特記仕様書ー(4)	縮尺							

表層改良工法特記仕様書

1 工法概要

本工法は現地地盤とセメント系固化材とをバックホウで混合攪拌し、所要の強度を有する改良体を造成する工法である。



2 一般事項

本工事は、特記仕様書によるほか、「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針 2018年」((財)日本建築センター)による。改良厚さ、土量、位置および固化材の配合等は、土質や地盤状況により変更することがある。本工事に先立ち、施工計画書を提出し監督員の承諾を得るものとする。施工計画書には次の事項を明記する。

- (1) 工事内容（改良厚さ、土量、位置、設計基準強度等）
- (2) 工程表
- (3) 施工方法（使用固化材、配合量等）
- (4) 施工機械
- (5) 施工管理方法
- (6) 品質管理方法
- (7) 安全管理方法
- (8) 請負業者の本工事責任者名
- (9) 本工事施工業者名および施工責任者名

3 特記事項

- (1) 改良厚さ、位置等は設計図による。
- (2) 改良体の設計基準強度：Fc=300KN/m²
- (3) 事前に配合試験を行い配合量の妥当性を確認する。

4 固化材配合量

- (1) 推定配合
 - 1) 固化材量：100kg/m³ ※事前に配合試験を行い配合量の妥当性を確認する。

5 施工機械

- (1) 施工機械本体は、改良厚さに見合った掘削、混合能力を有すること。

6 施 工

- (1) 施工改良対象地盤にマーキングしできあがった升目に改良材を散布する。混合した改良土は、状況を見てできるだけ早期に転圧を行う。改良土は、転圧完了後所定の強度を得るまで養生する。施工に対して疑義が生じた場合は、直ちに監督員と協議し、その指示を受ける。施工精度を満足しない場合は、監督員と協議しその指示を受け適切な処置をする。

7 施工管理

- 施工過程における管理方法は次の通りとする。
 - (1) 固化材散布量マーキングに基づき1tフレコンを所定面積内に均一に散布する。
 - (2) 改良厚さ混合中に機械を止めて、改良厚さをスタッフ等により測定する。
 - (3) 混合程度固化材と改良対象土の色むらがなくなるまで混合する。

8 報 告

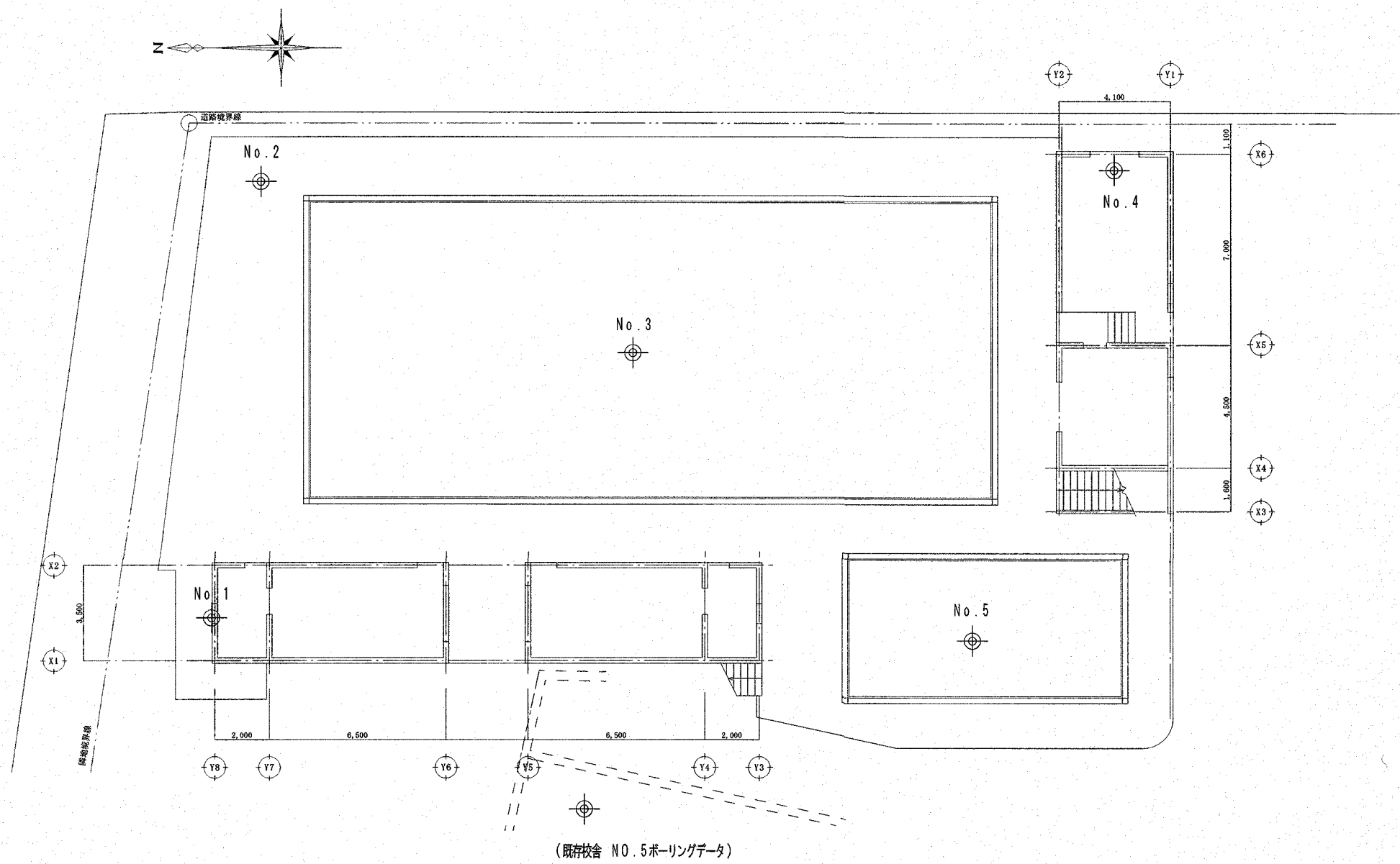
- 工事完了後、次の事項について報告書をまとめて1部を監督員に提出する。
 - (1) 施工日報（改良厚さ、位置、土量、配合量、固化材使用量等）
 - (2) 固化材散布量、改良厚さの状況写真
 - (3) 管理試験結果

9 管理試験

- (1) 一軸圧縮試験
 - 1) 現場採取供試体500m³につき1ヶ所改良土を採取し、寸法φ5cm x 10cmの供試体を3個/箇所作成し、一軸圧縮試験を行う。
 - 2) 材令7日で各箇所の圧縮強度の平均値が設計基準強度の平均値を上回ること。
- (2) 六価クロム溶出試験
 - 国土交通省 国官技第16号、国営建第1号（平成13年4月20日）「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領(案)」による六価クロム溶出試験を実施し試験結果を提出するものとする。

事前配合試験段階 1検体

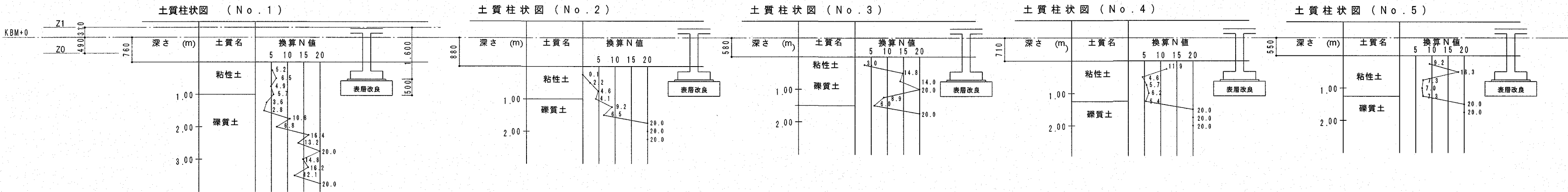
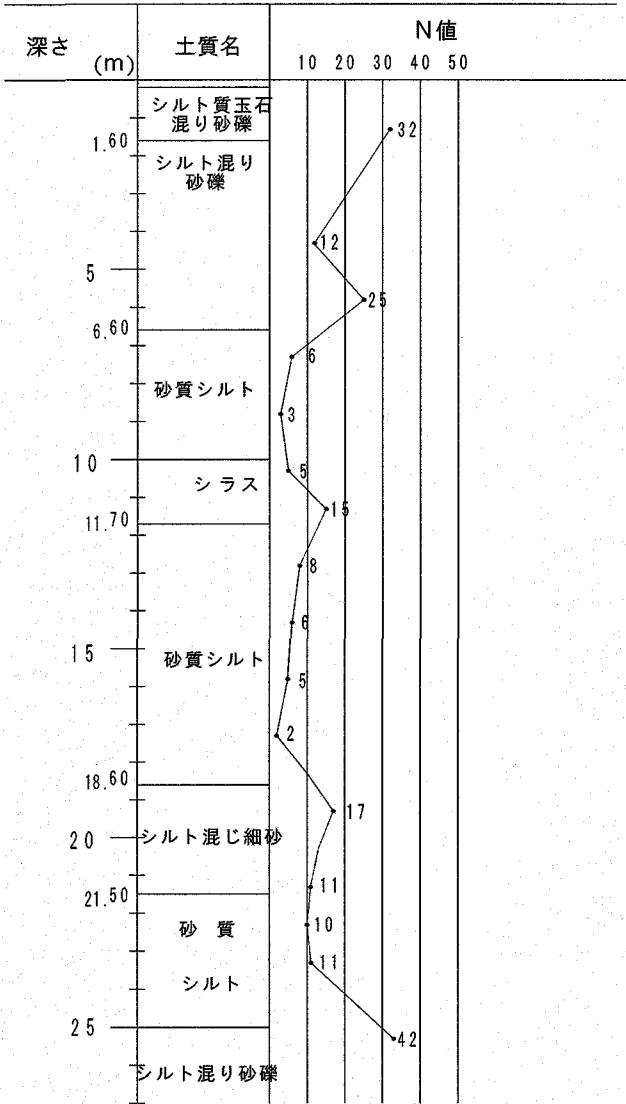
特記	高知市 都市建設部 公共建築課				工事名称	第四小学校プール改築工事	Draw	Check	作成年月日	 株式会社若竹まちづくり研究所	図面番号
			課長補佐	課長	図面名称				表層改良工法特記仕様書		
						開 設 者 一級建築士 佐藤八尋 第115410号 管理建築士 一級建築士 小松道就 第223530号					



地盤調査位置図 S=1/200

※土質柱状図のK B M ± 0 は、児童クラブ玄関ポーチ天端

土 質 柱 状 図 (既検査 NO. 5ボーリングデータ)



特記

高知市 都市建設部 公共建築課



工事名称 第四小学校プール改築工事

図面名称 地盤調査及び位置図

Draw

Check

作成年月日
\$j

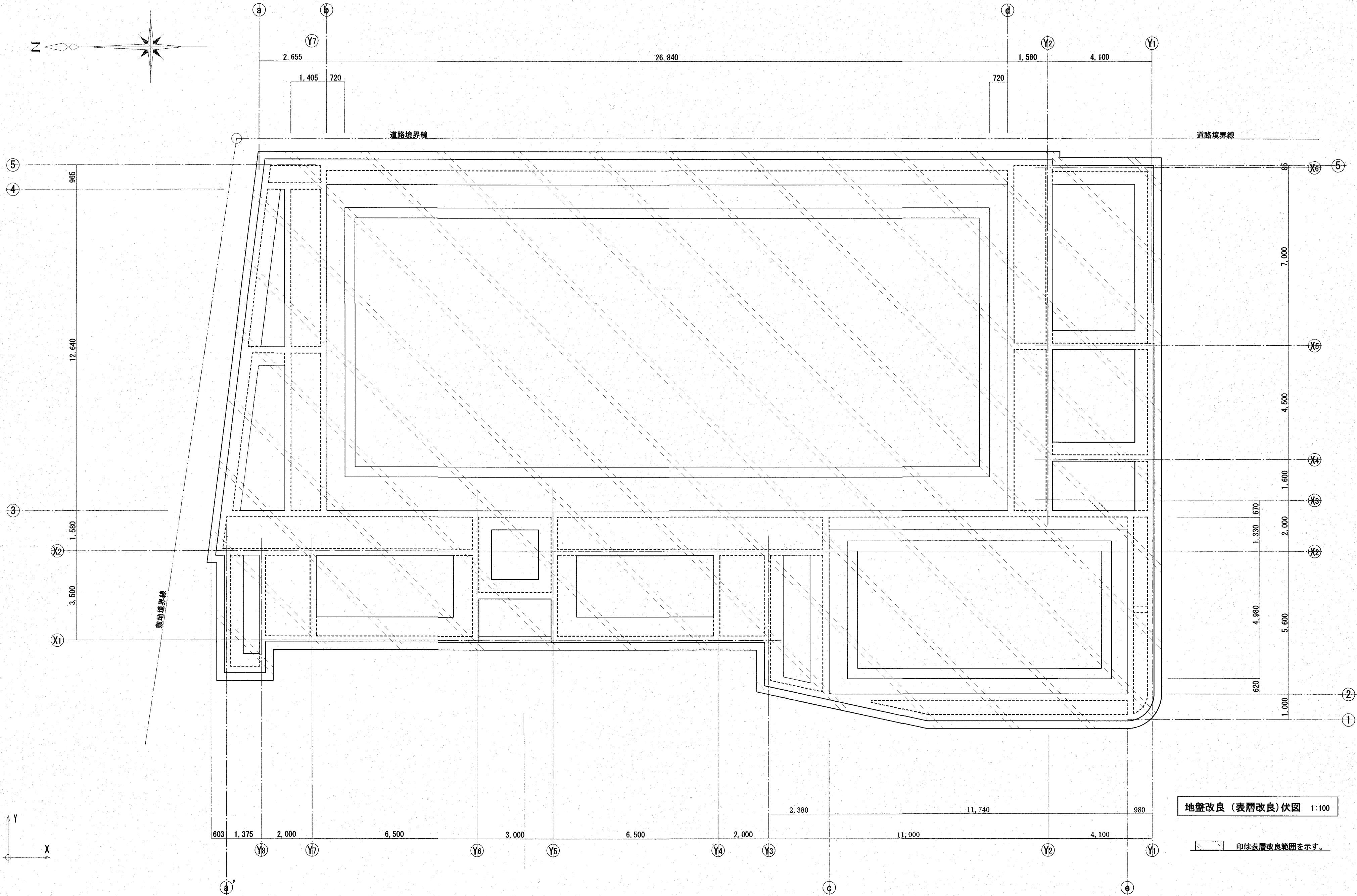
縮 尺

株式会社若竹まちづくり研究所

開 設 者 一級建築士 佐藤八尋 第115410号
管理建築士 一級建築士 小松道就 第223530号

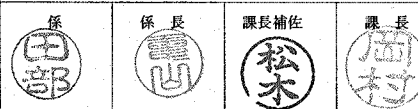
図面番号

B-06



特記

高知市 都市建設部 公共建築課



工事名称

第四小学校プール改築工事

図面名称

地盤改良（表層改良）伏図

Draw

Check

作成年月日

\$j

縮尺

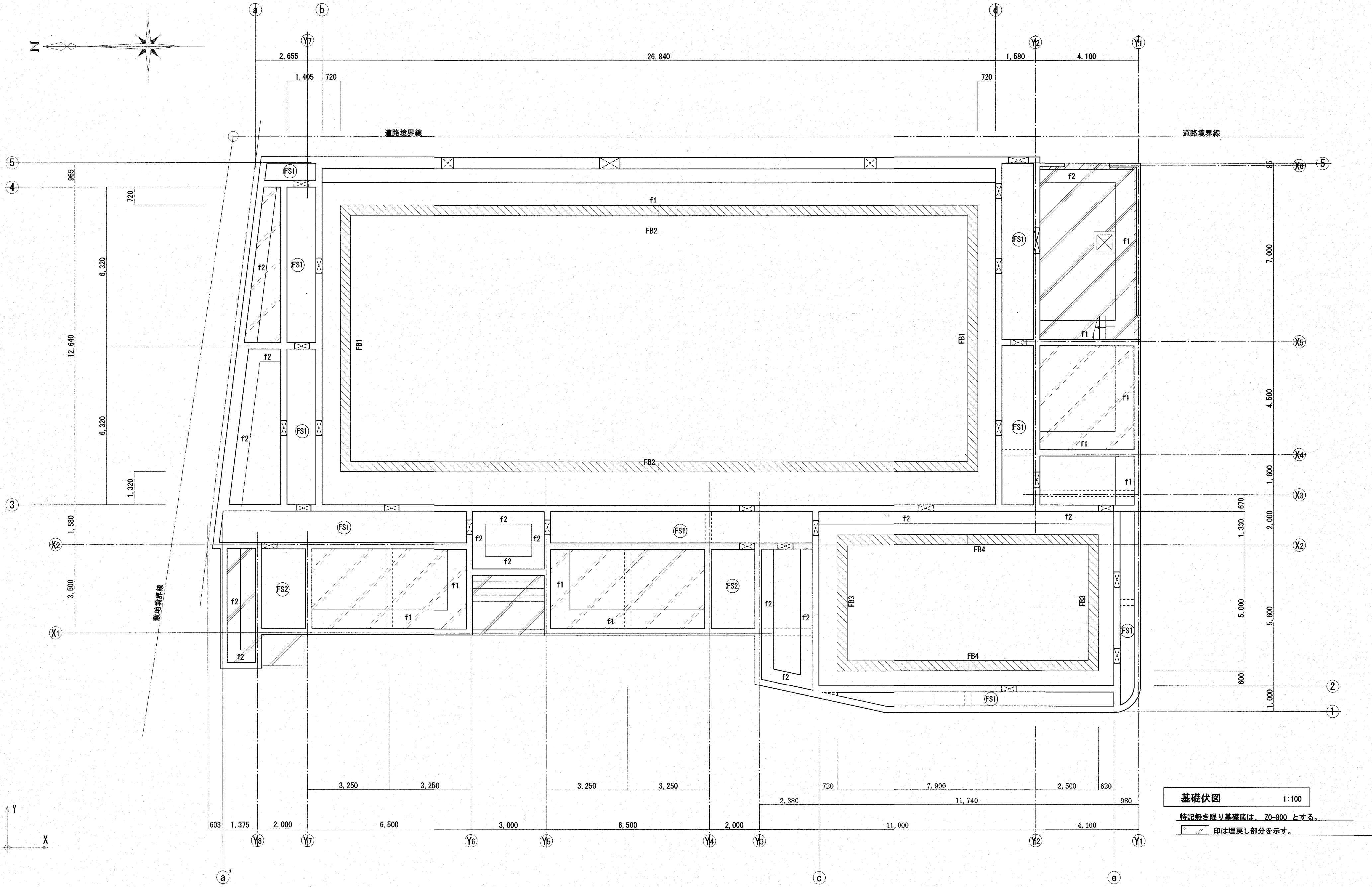
S=1/100

株式会社若竹まちづくり研究所

開設者 一級建築士 佐藤八尋 第115410号
管理建築士 一級建築士 小松道就 第223530号

図面番号

B-07

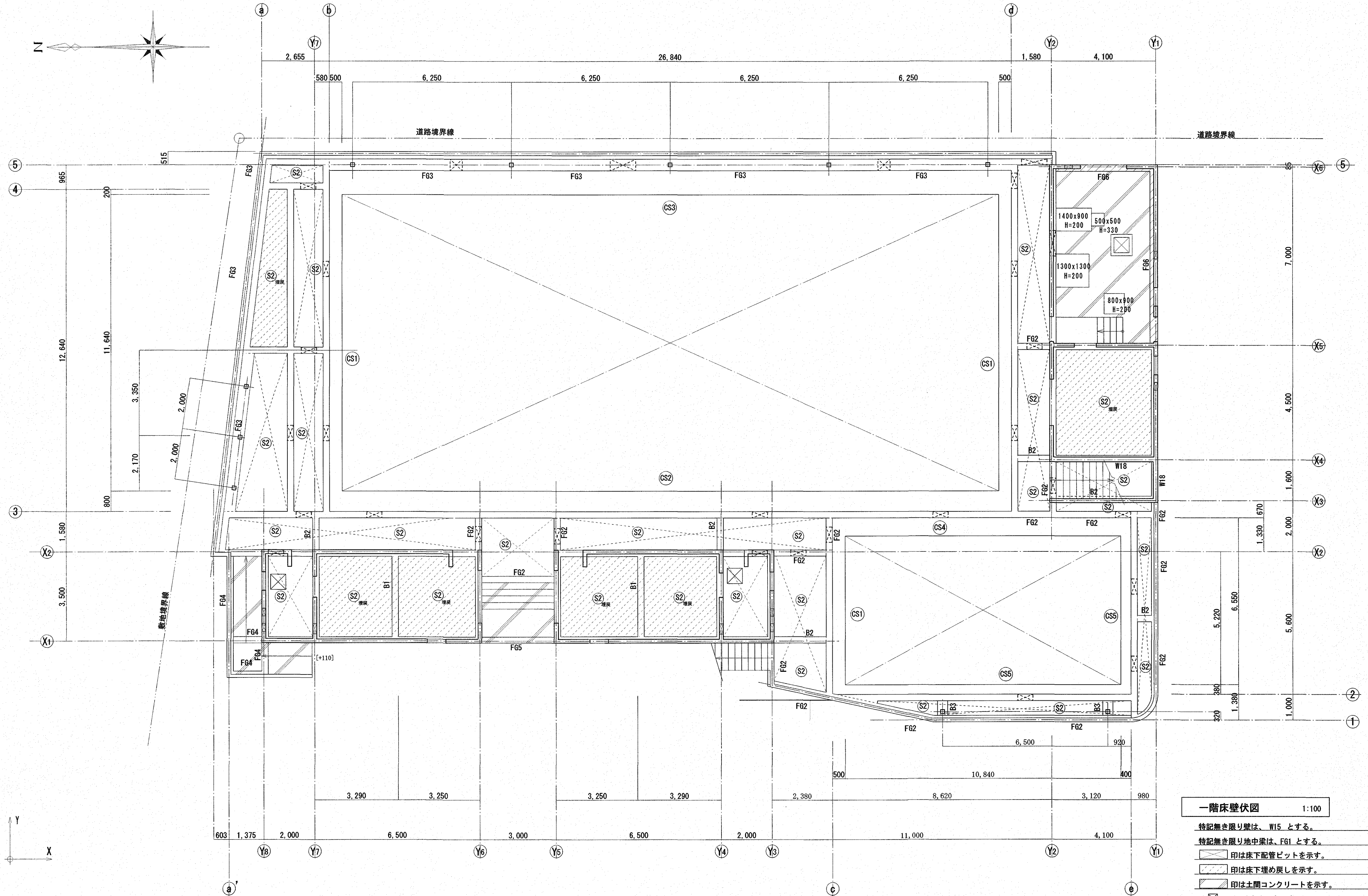


基礎伏図 1:100

特記無き限り基礎底は、70-800 とする。

印は埋戻し部分を示す。

特記	高知市 都市建設部 公共建築課				工事名称 第四小学校プール改築工事	Draw	Check	作成年月日 \$j\$	株式会社若竹まちづくり研究所	図面番号 B-08
	係 田部	係長 田部	課長補佐 松本	課長 田部						
	図面名称 基礎伏図									



一階床壁伏図

1:100

特記無き限り壁は、W15 とする。

特記無き限り地中梁は、F61 とする。

印は床下配管ピットを示す。

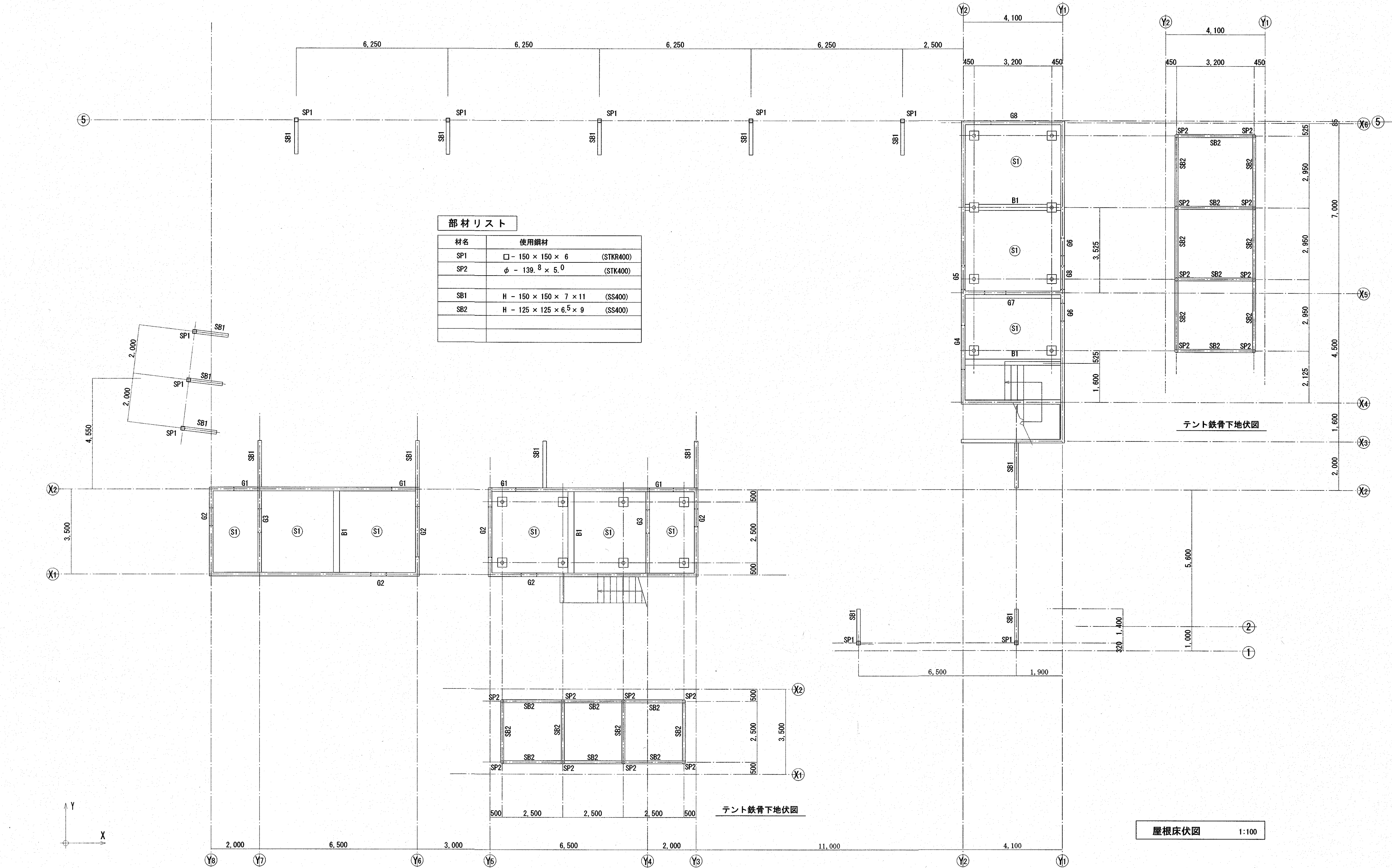
印は床下埋め戻しを示す。

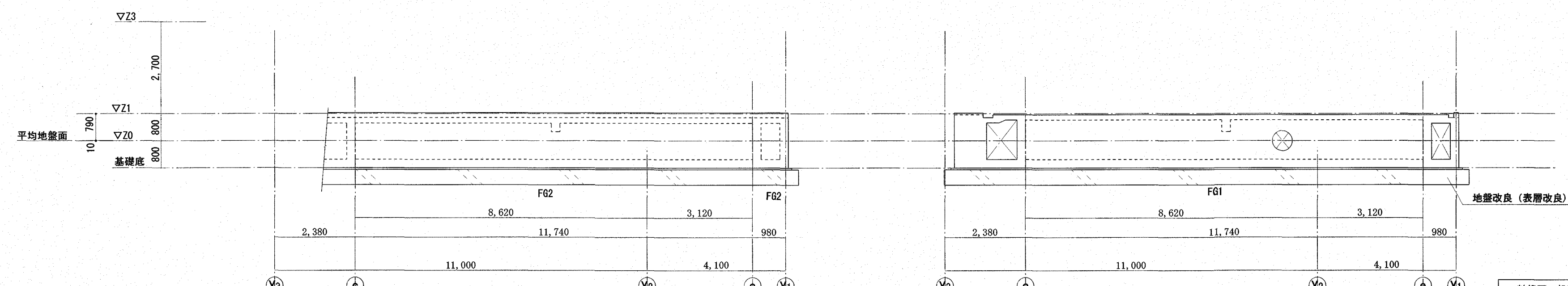
印は土間コンクリートを示す。

印は床改口を示す。

印は梁人通孔位置を示す。

特記	高知市 都市建設部 公共建築課				工事名称	第四小学校プール改築工事	Draw	Check	作成年月日 \$j\$	 株式会社若竹まちづくり研究所	図面番号 B-09		
					図面名称				一階床壁伏図			縮 尺 S=1/100	開 設 者 一級建築士 佐藤八尋 第115410号 管理建築士 一級建築士 小松道就 第223530号

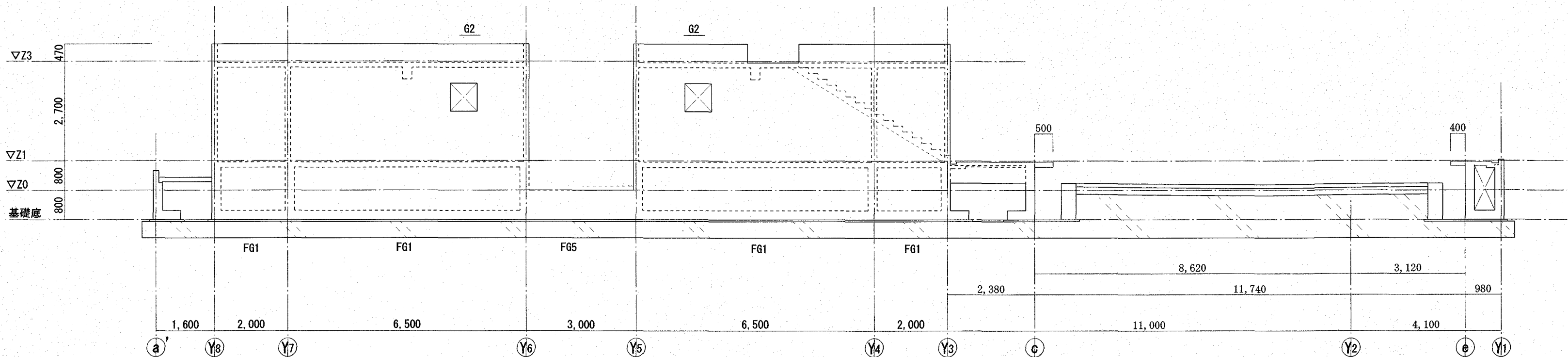




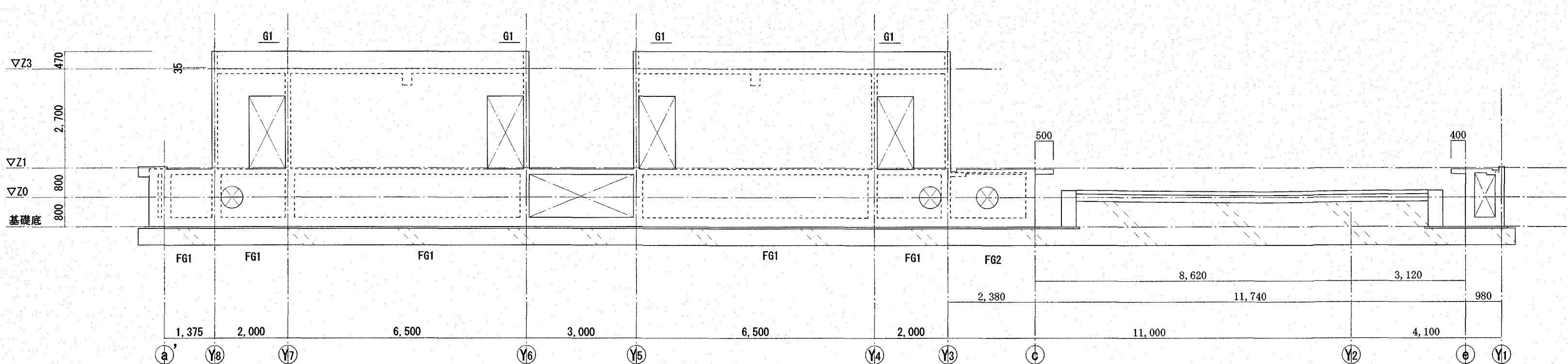
① 通り軸組図 1:100

② 通り軸組図 1:100

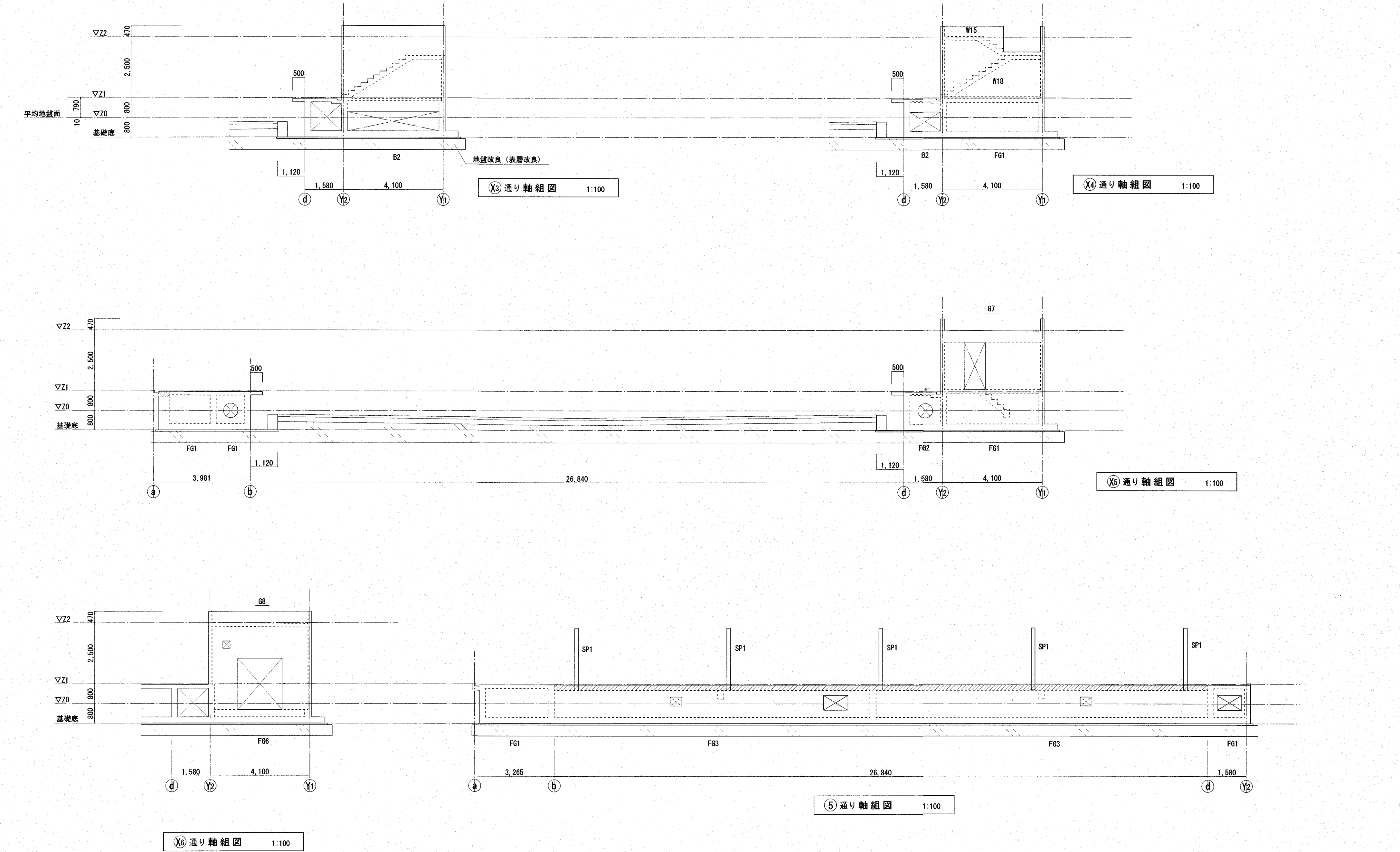
- 軸組図一般事項
- 1 特記なき限り、以下の通りとする。
コンクリート壁 W15
 - 2 印は、柱、梁の増打ちを示す。
 - 3 縦補強筋は、壁配筋図による。
斜補強筋は、1-D13 を配する。
 - 4 印は、地盤改良を示す。



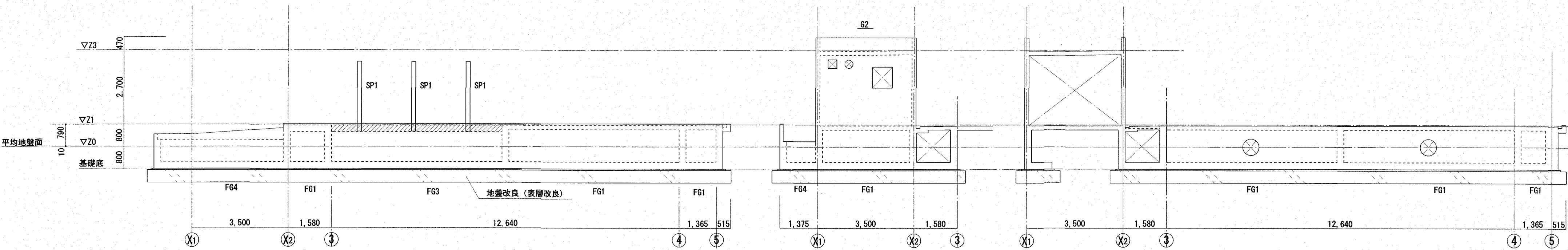
X1 通り軸組図 1:100



X2 通り軸組図 1:100



特記	高知市 都市建設部 公共建築課				工事名称	第四小学校プール改築工事	Draw	Check	作成年月日	株式会社若竹まちづくり研究所	図面番号
	係長 田部	係長 田部	課長補佐 松本	課長 松本	図面名称				\$j		
軸組図 - (2)									縮尺 S=1/100	開設者 一級建築士 佐藤八尋 第115410号 管理建築士 一級建築士 小松道就 第223530号	B-12

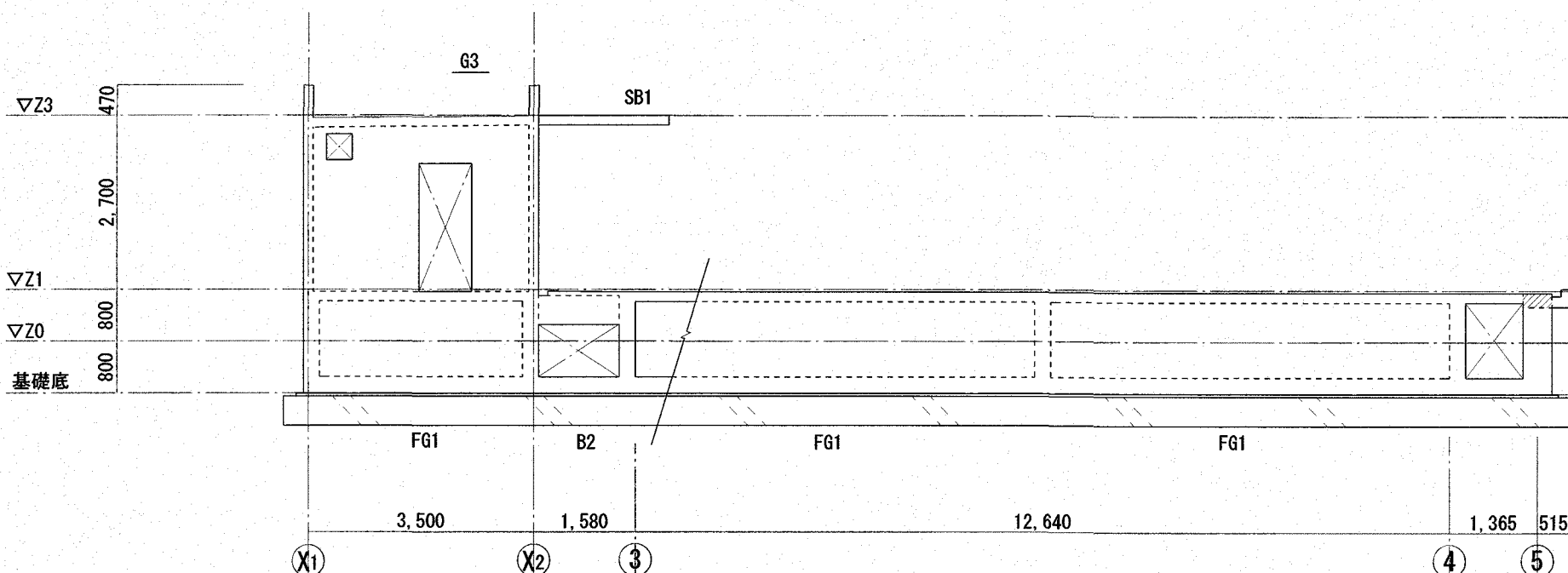


㉑ 通り軸組図 1:100

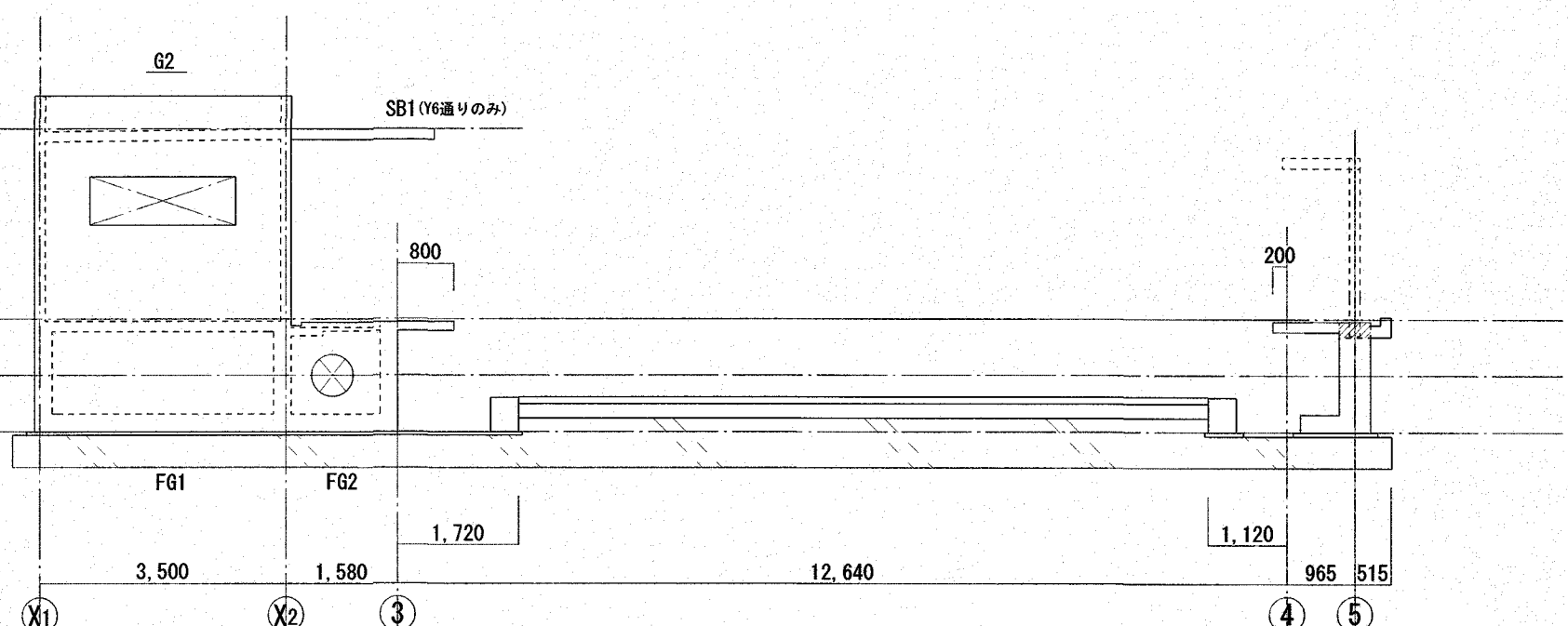
㉒ 通り軸組図 1:100

㉓ 通り軸組図 1:100

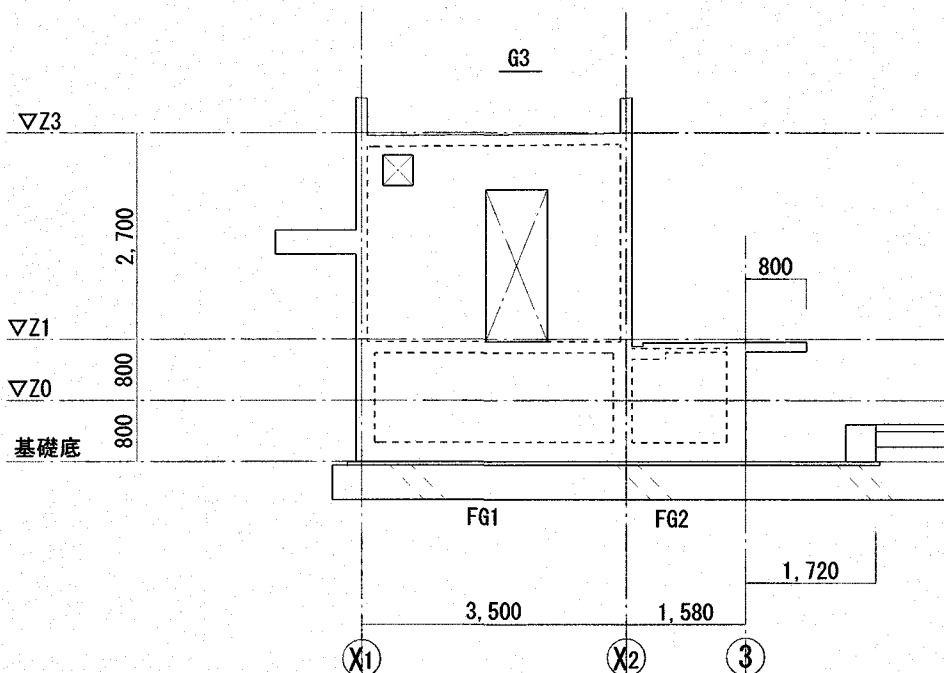
㉔ 通り軸組図 1:100



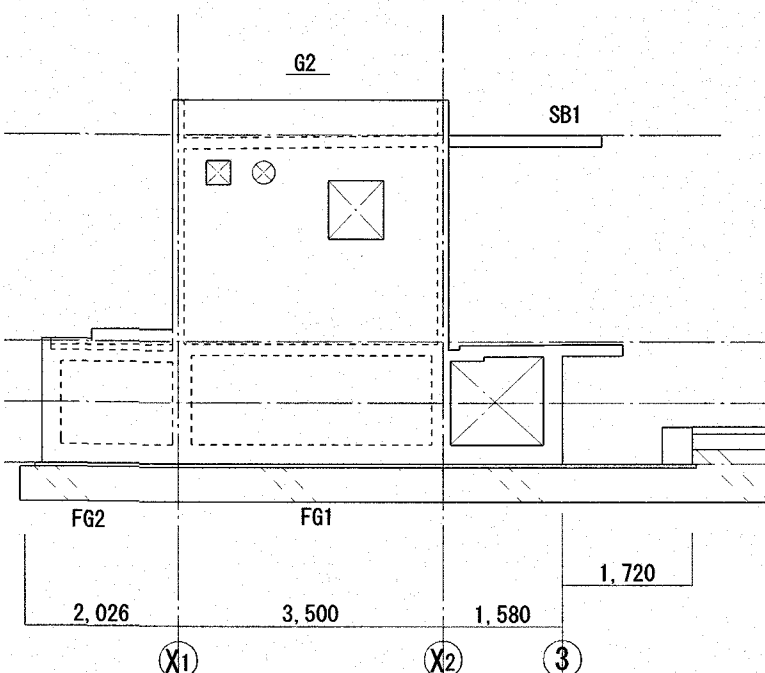
㉕ 通り軸組図 1:100



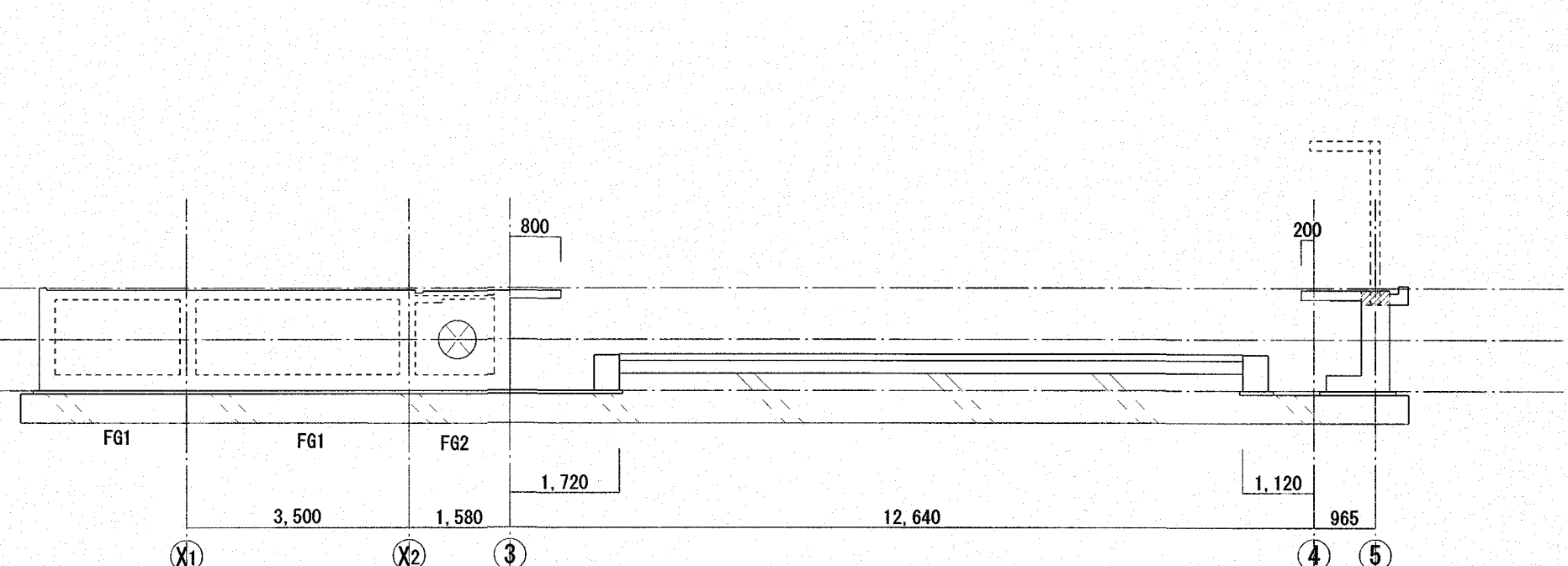
㉖ ㉗ 通り軸組図 1:100



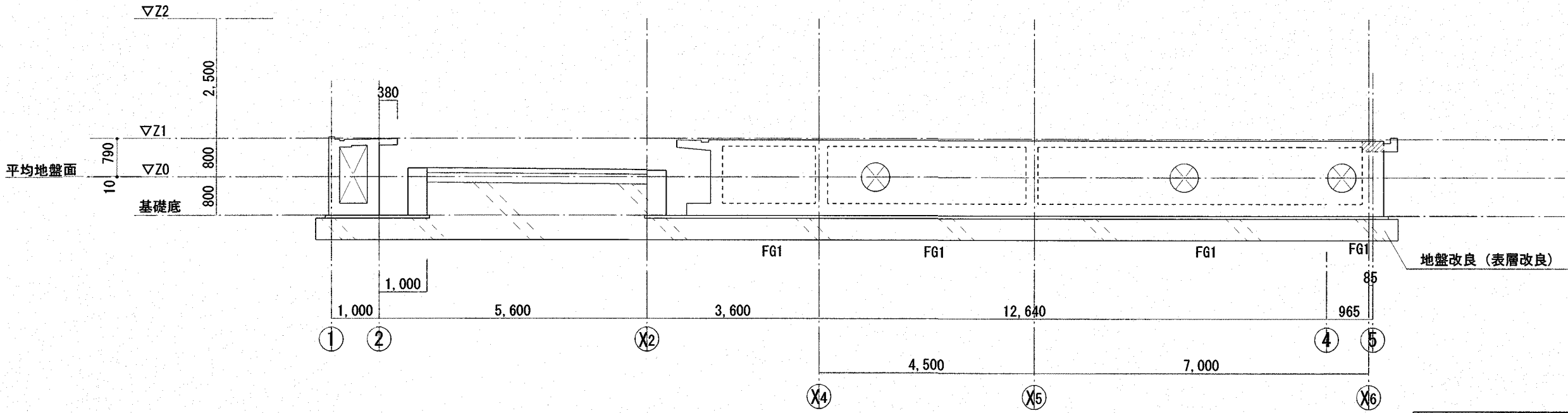
㉘ 通り軸組図 1:100



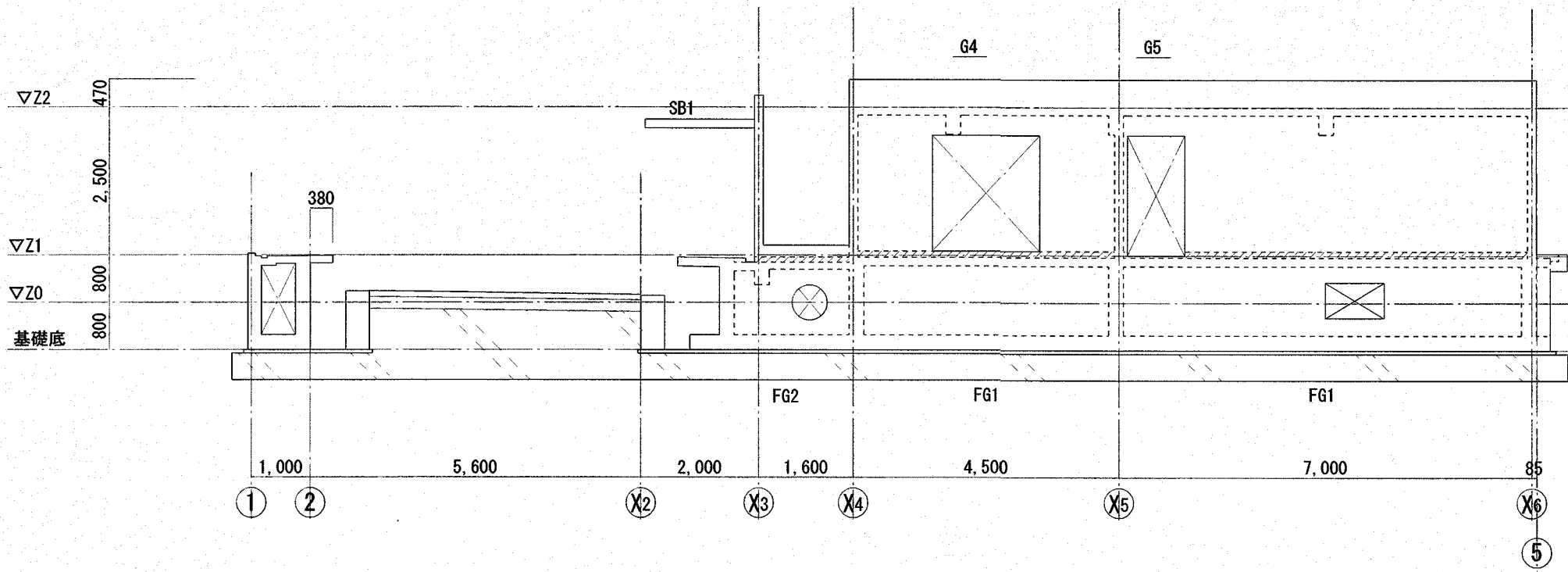
㉙ 通り軸組図 1:100



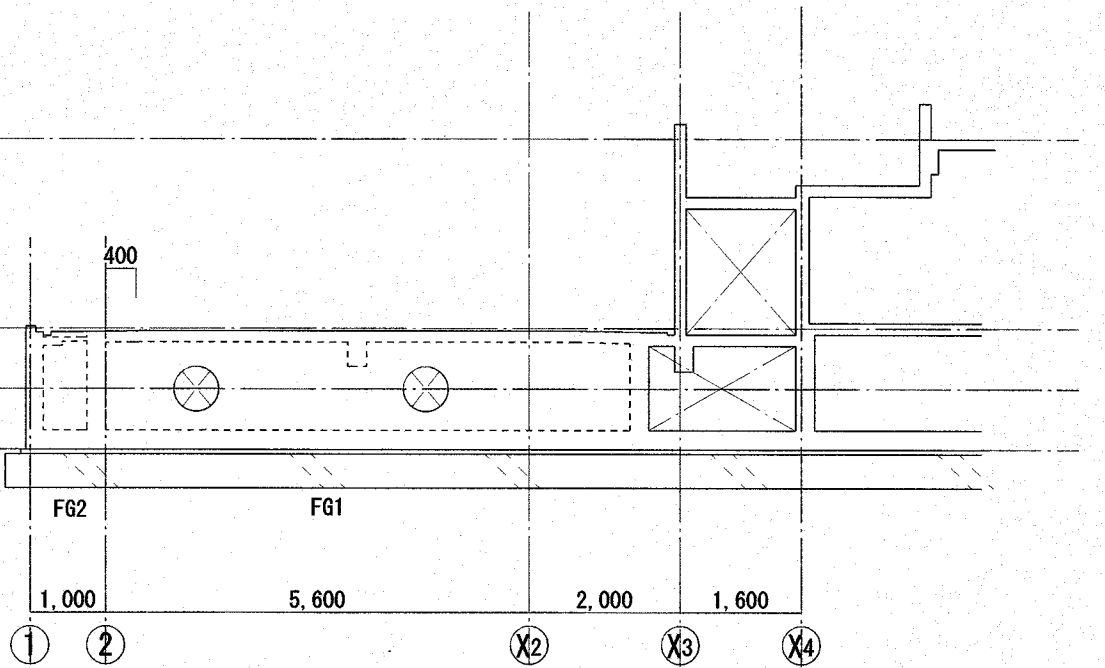
㉚ 通り軸組図 1:100



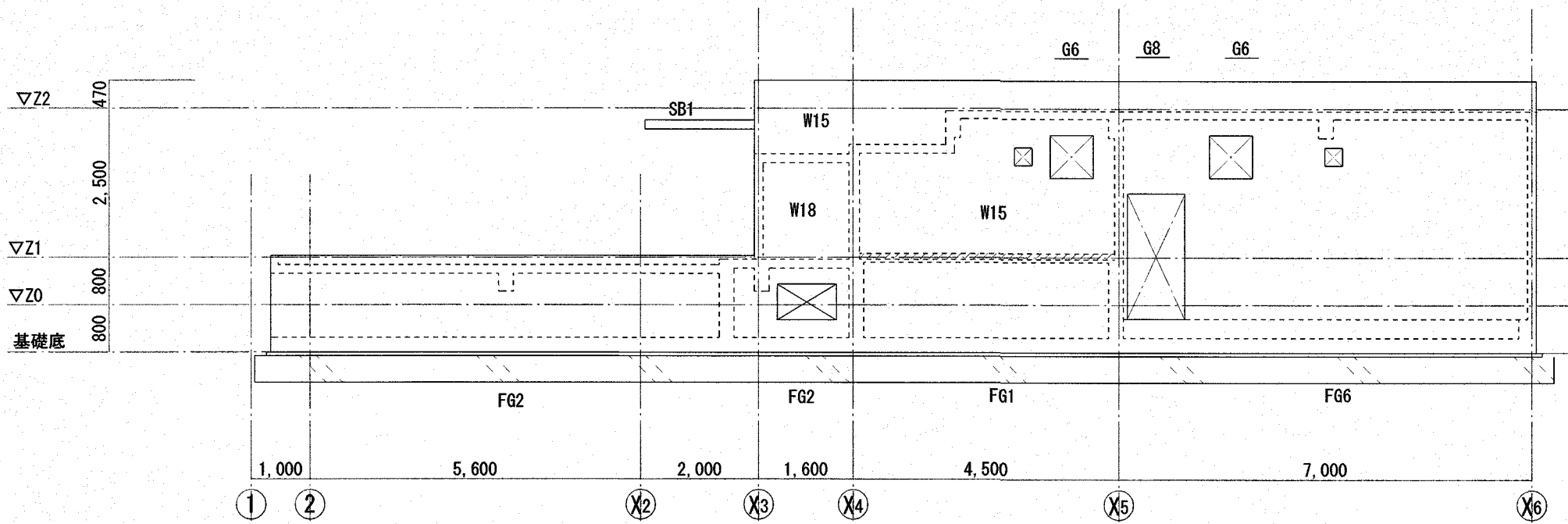
d) 通り軸組図 1:100



Y2) 通り軸組図 1:100

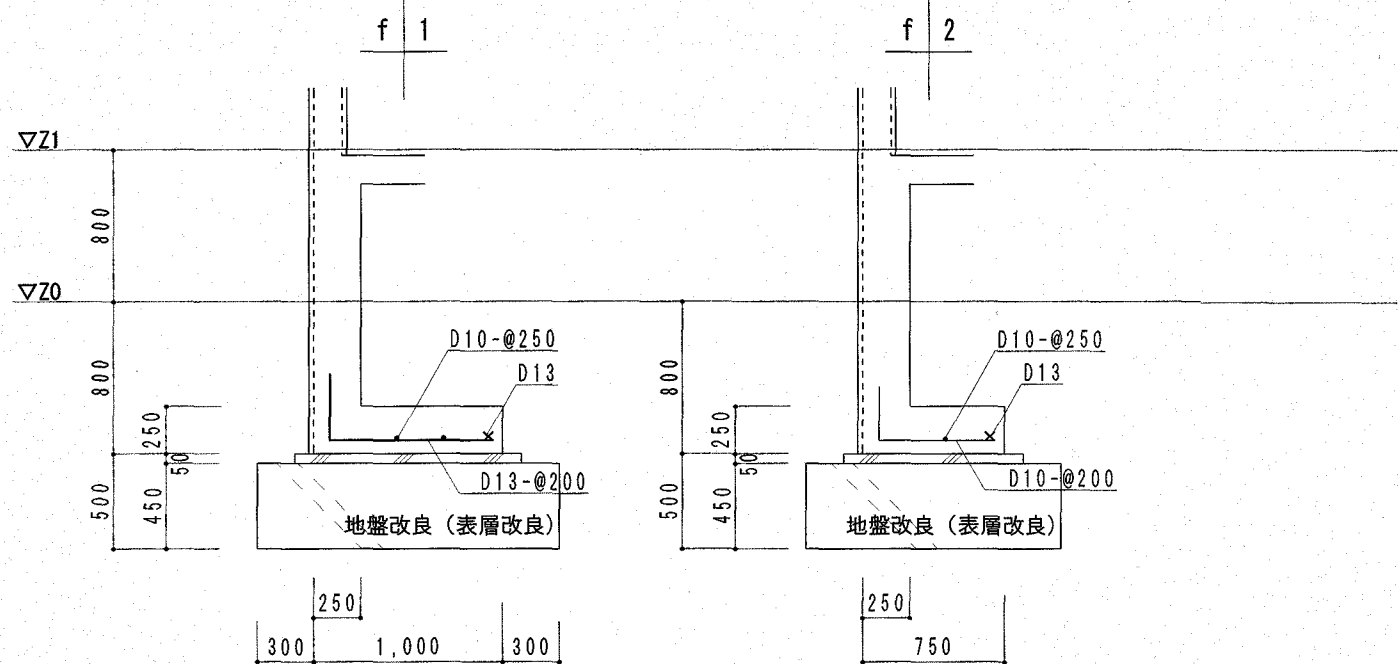


e) 通り軸組図 1:100



Y1) 通り軸組図 1:100

特記	高知市 都市建設部 公共建築課				工事名称	第四小学校プール改築工事	Draw	Check	作成年月日	株式会社若竹まちづくり研究所	図面番号
	係	係長	課長補佐	課長	作成年月日						
	田部	山田	松本	高村	\$j						
					図面名称	軸組図- (4)			縮尺	開設者	一級建築士 佐藤八尋 第115410号
									S=1/100	管理建築士	一級建築士 小松道就 第223530号



基礎床版配筋リスト 1:40

材名	部分	短辺方向	長辺方向
FS1	全域		
FS2	全域		

捨てコンクリート 厚さ 50

地盤改良 厚さ 450

地中梁 配筋リスト 1:40

材 名	FG 1	FG 2	FG 3	FG 4	FG 5	FG 6		FB 1	FB 2	FB 3	FB 4		
部 分	全 域	全 域	全 域	全 域	全 域	全 域		全 域	全 域	全 域	全 域		
B × D	250 × 1570	250 × 1480	450 × 1350	250 × 1000	250 × 800	300 × 570		400 × 510	400 × 510~360	400 × 860	400 × 810~860		
上端筋	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16		3-D16	3-D16	3-D16	3-D16		
腹 筋	8-D10	8-D10	6-D10	4-D10	4-D10	2-D10				4-D10	4-D10		
下端筋	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16	2-D16		3-D16	3-D16	3-D16	3-D16		
スターラップ	D10-@200	D10-@200	D10-@200	D10-@200	D10-@200	D10-@200		D10-@200	D10-@200	D10-@200	D10-@200		

特記

高知市 都市建設部 公共建築課



工事名称

第四小学校プール改築工事

図面名称

基礎地中梁配筋リスト

Draw

Check

作成年月日

\$j

縮尺

S=1/40



株式会社若竹まちづくり研究所

開設者 一級建築士 佐藤八尋 第115410号
管理建築士 一級建築士 小松道就 第223530号

図面番号

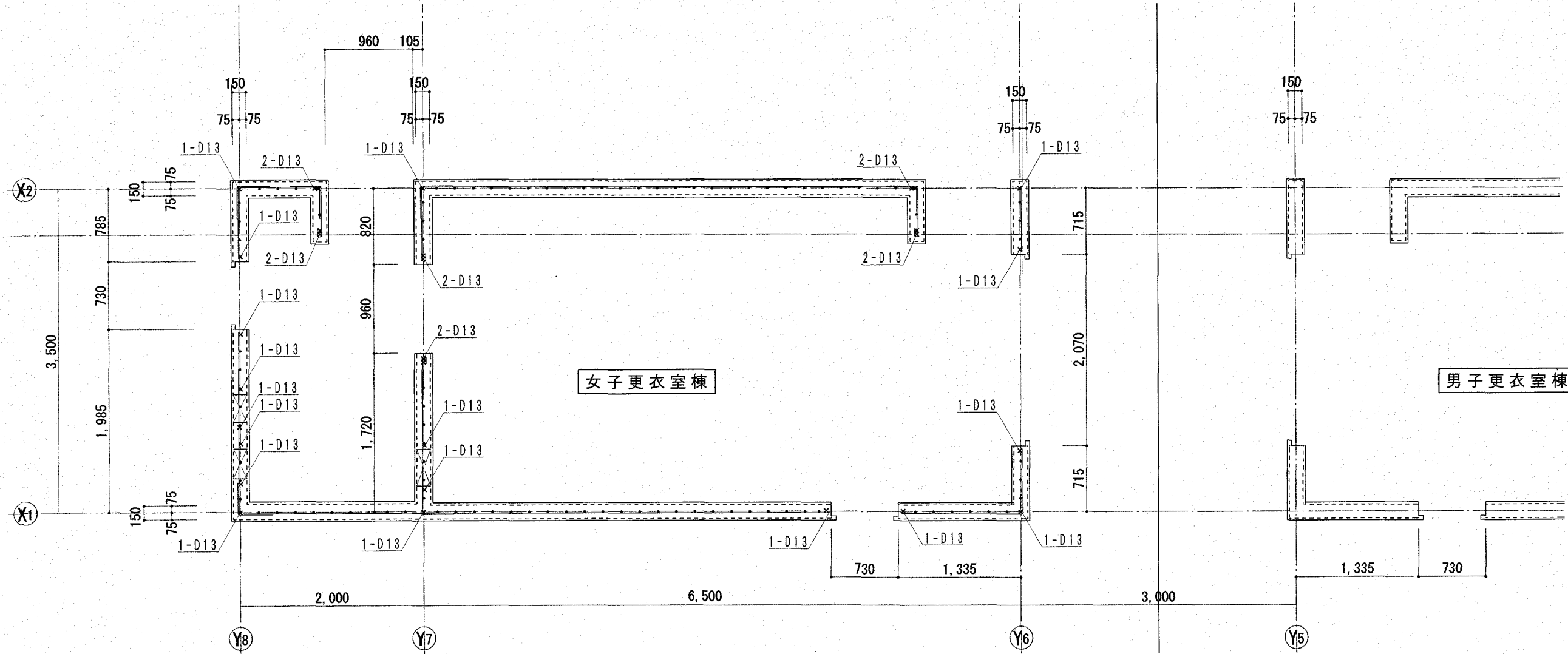
B-15

A2印刷は 100%出力、A3印刷は70.7%出力

壁配筋表

壁符号	主筋		開口補強筋 (h _o > 1m)			(h _o ≤ 1m)
	縦筋	横筋	縦筋	横筋	斜筋	縦横筋
W15	D10- @ 200 S	D10- @ 200 S	2-D13	2-D13	1-D13	1-D13
W18	D10- @ 200 D	D10- @ 200 D	2-D13	2-D13	—	—

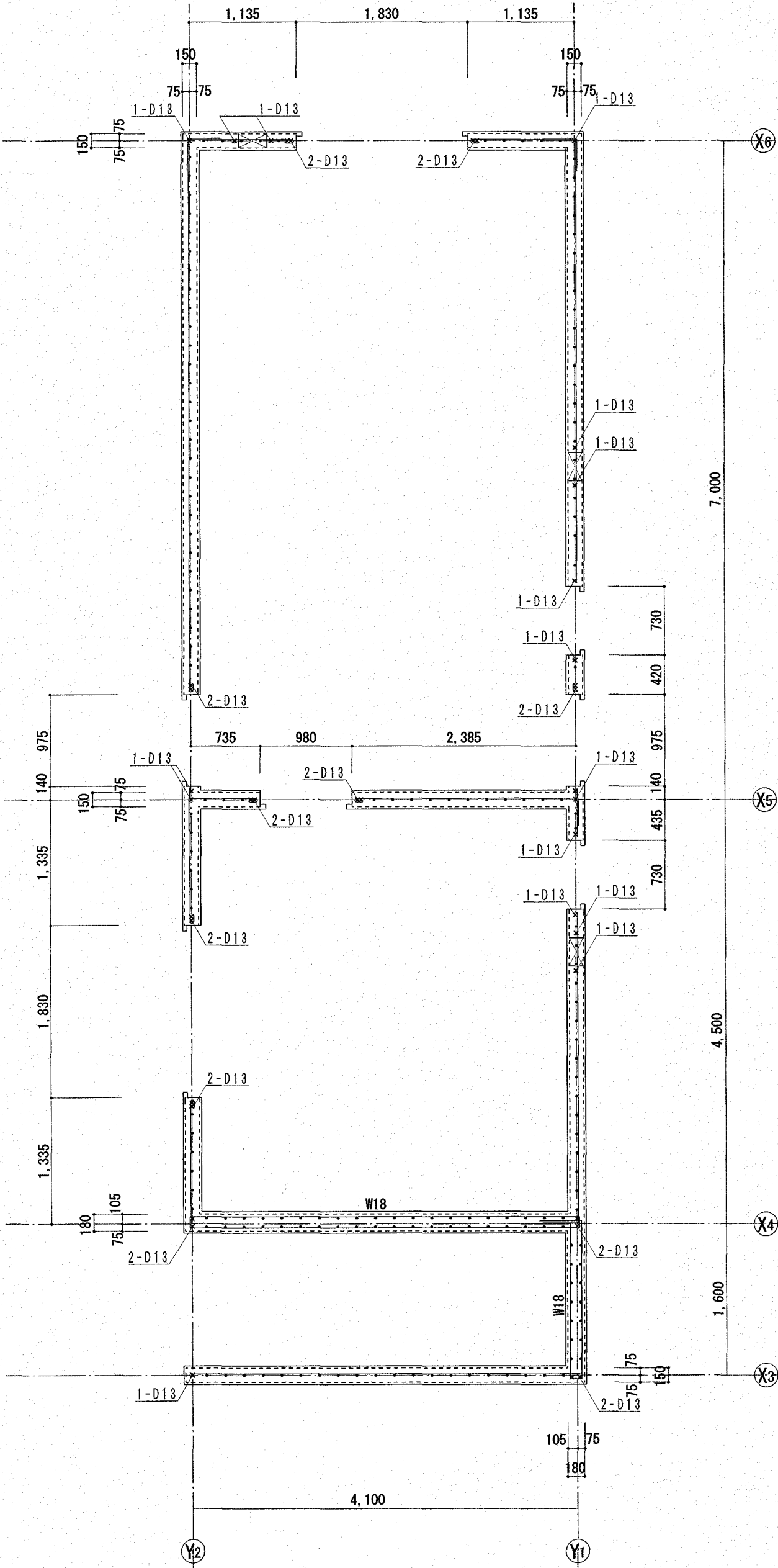
S : シングル
D : ダブル



更衣室棟壁配筋図 1:50

男子更衣室棟は女子更衣室棟の対称形とする。

特記無き限り壁は、W15とする。



機械室棟壁配筋図 1:50

特記無き限り壁は、W15とする。

特記	高知市 都市建設部 公共建築課				工事名称 第四小学校プール改築工事	Draw	Check	作成年月日 \$j\$	作成者 株式会社若竹まちづくり研究所	図面番号 B-16
	係 田部	係長 山	課長補佐 松本	課長 村						
	図面名称 壁配筋図				縮尺 S=1/50			開設者 一級建築士 佐藤八尋 第115410号 管理建築士 一級建築士 小松道就 第223530号		

大梁配筋リスト 1:40

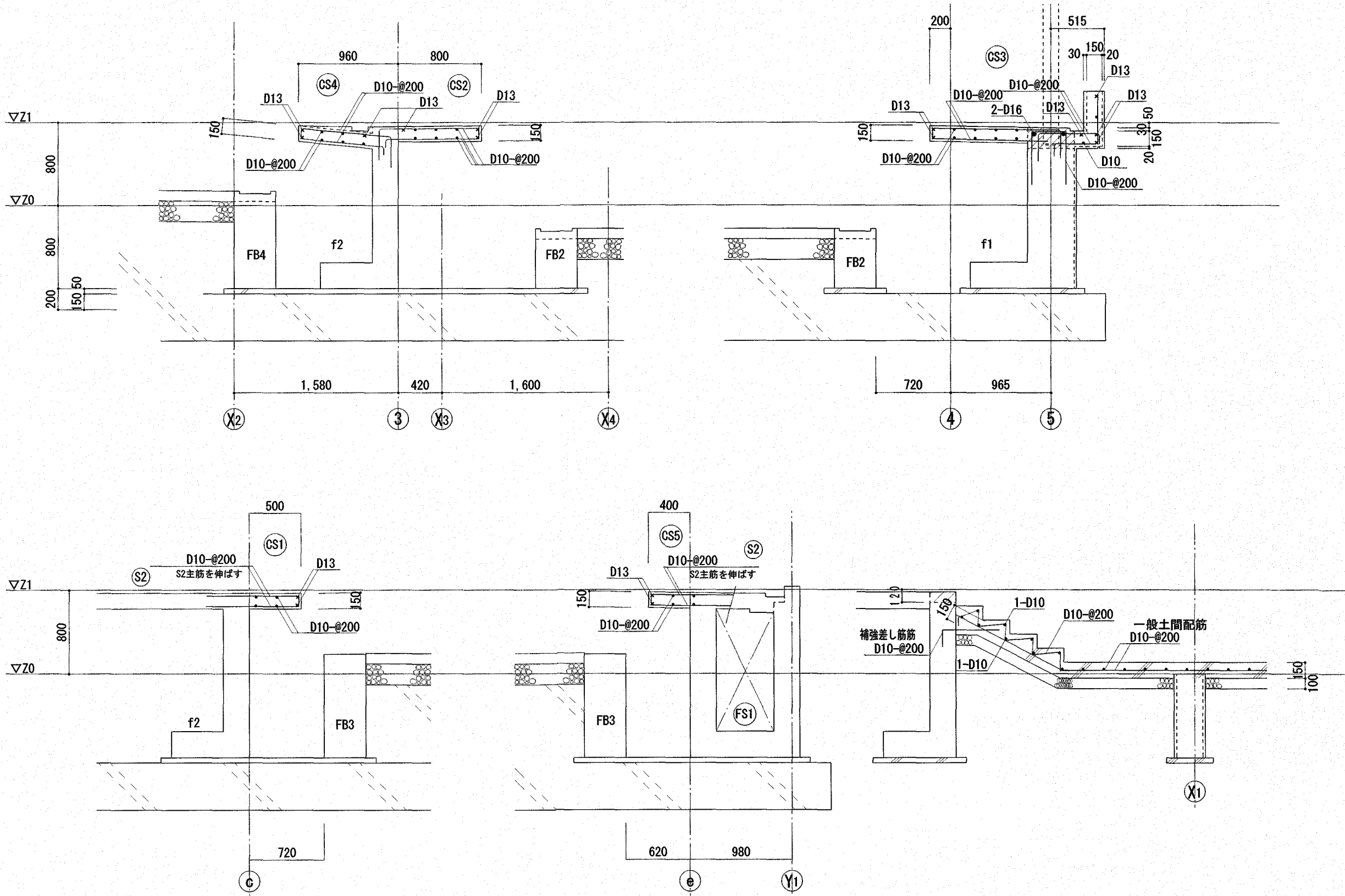
材名	G 1	G 2	G 3		G 4	G 5	G 6	G 7	G 8		
部分	全 域	全 域	全 域		全 域	全 域	全 域	全 域	全 域		
B×D	150×1215	150×1065	150×730		150×920	150×920	150×920	250×450	150×1930		
上端筋	1-D13	1-D13	1-D13		2-D13	1-D13	1-D13	2-D16	1-D13		
腹筋	3-D10+1-D13	3-D10+1-D13	2-D10		2-D10+1-D13	2-D10+1-D13	2-D10+1-D13		7-D10+1-D13		
下端筋	2-D13	1-D13	2-D13		2-D13	2-D13	1-D13	2-D16	2-D13		
スターアップ	D10-@200	D10-@200	D10-@200		D10-@200	D10-@200	D10-@200	D10-@200	D10-@200		

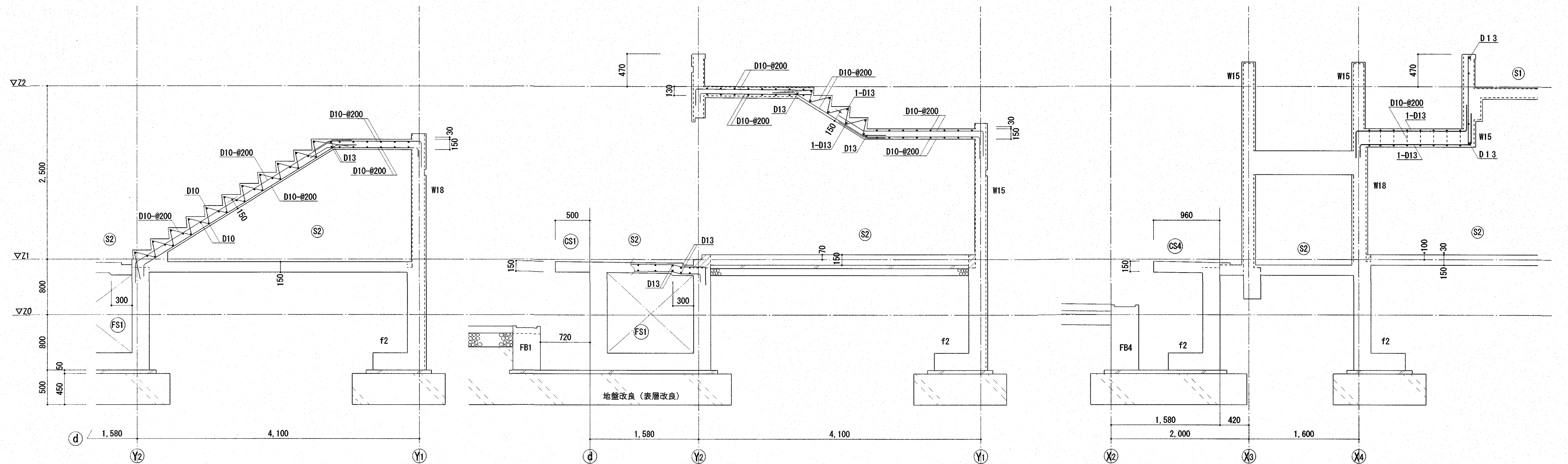
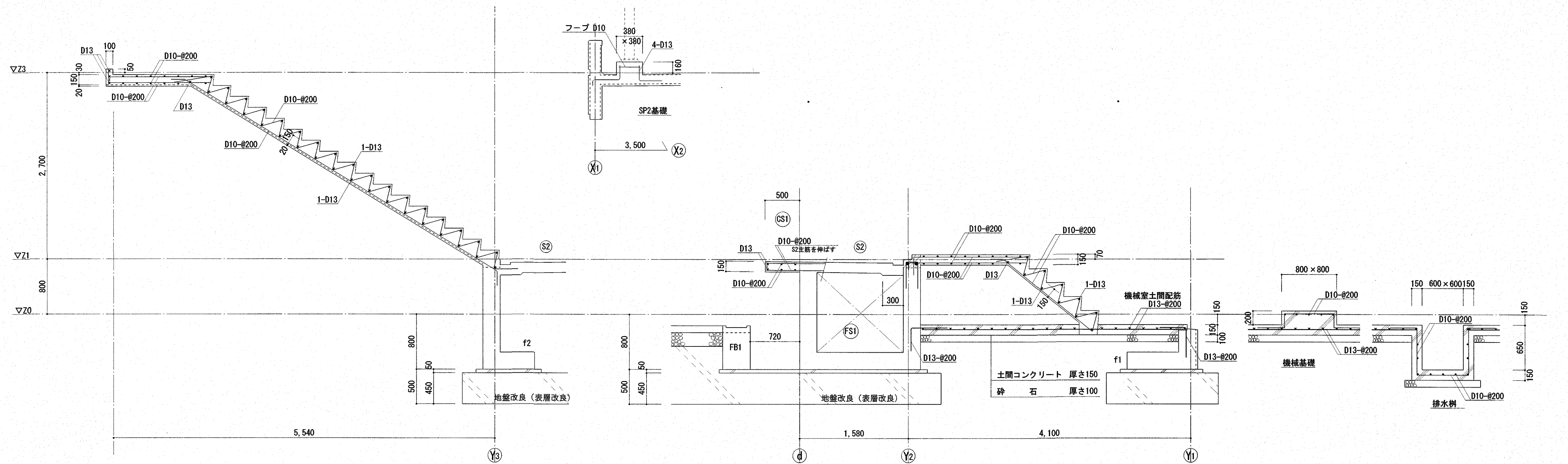
小梁配筋リスト 1:40

材名	B 1	B 2	B 3
部分	全 域	全 域	全 域
B × D	250×450	250×450	400×600
上端筋	3-D16	2-D16	2-D16
腹筋			
下端筋	3-D16	2-D16	2-D16
スターアップ	D10-@200	D10-@200	D10-@200

床版配筋リスト 1:40

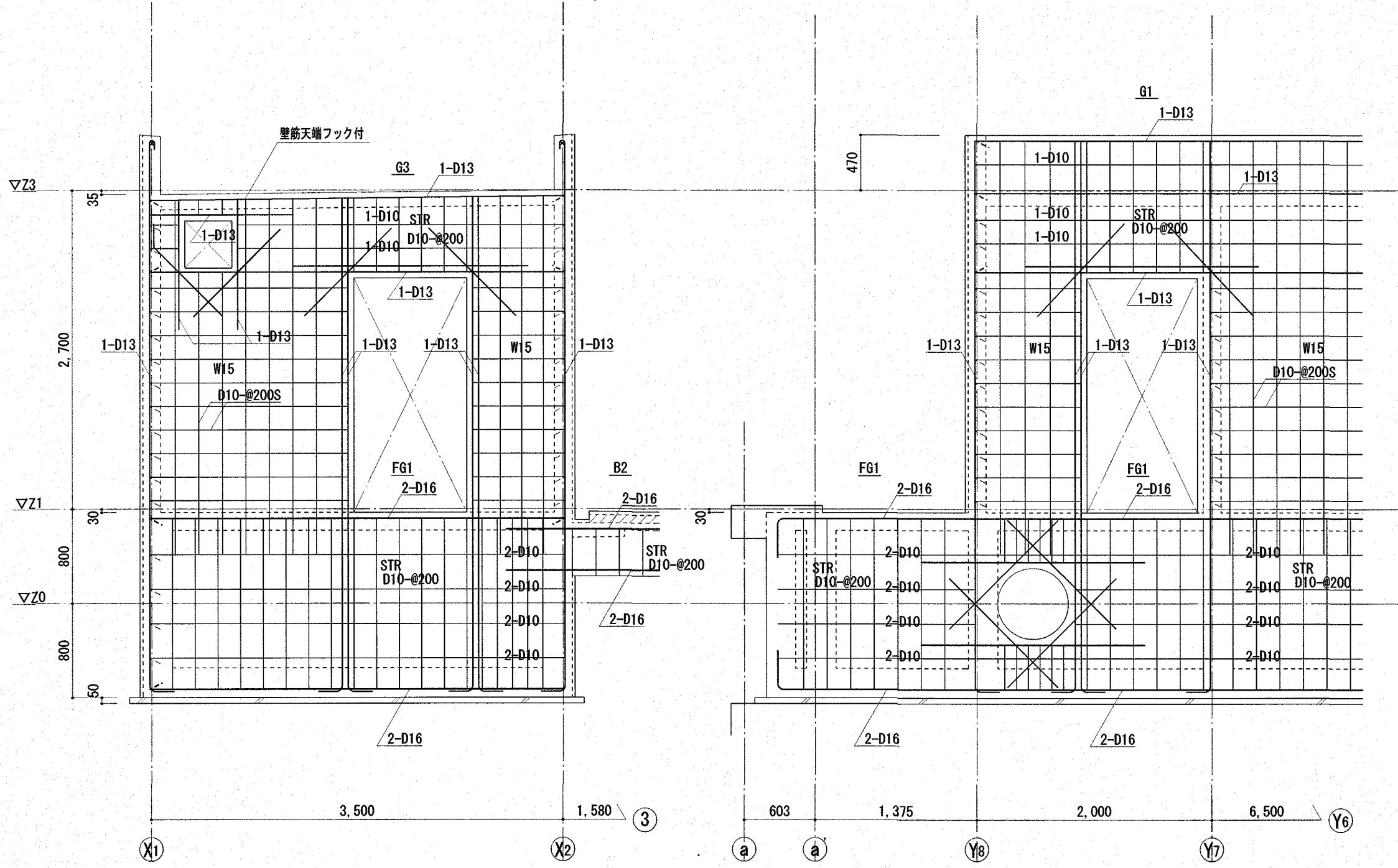
材名	部分	短辺方向	長辺方向
Ⓢ1	全 域		
Ⓢ2	全 域		





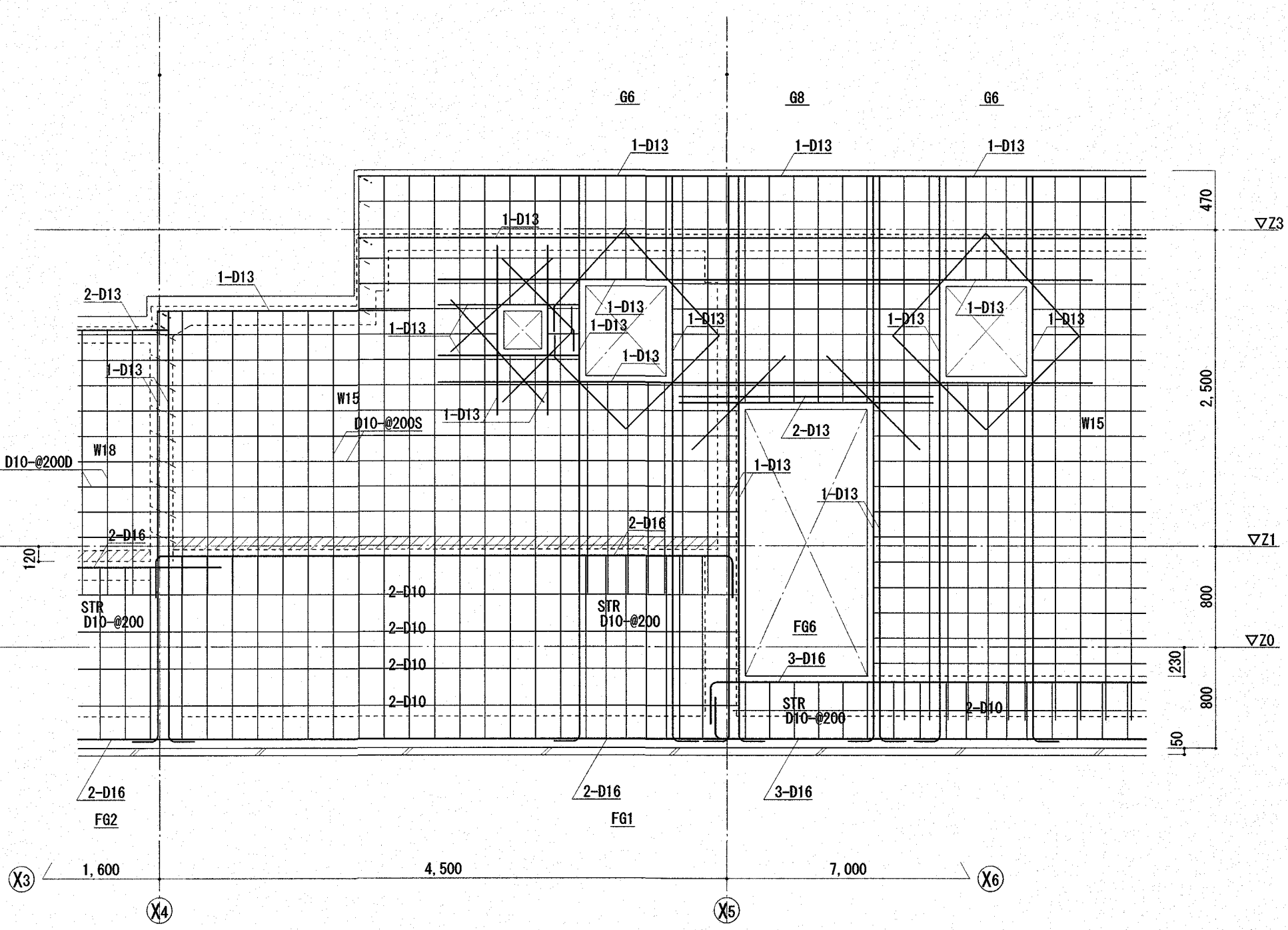
特記	高知市 都市建設部 公共建築課				工事名称	第四小学校プール改築工事	Draw	Check	作成年月日	株式会社若竹まちづくり研究所	図面番号
	保 長	保 長	課長補佐	保 長	\$j				B-18		
					縮 尺						
					図面名称	階段詳細図			開 設 者 一級建築士 佐藤八尋 第115410号 管理建築士 一級建築士 小松道就 第223530号		
									S=1/40		

A2印刷は 100%出力、A3印刷は70.7%出力

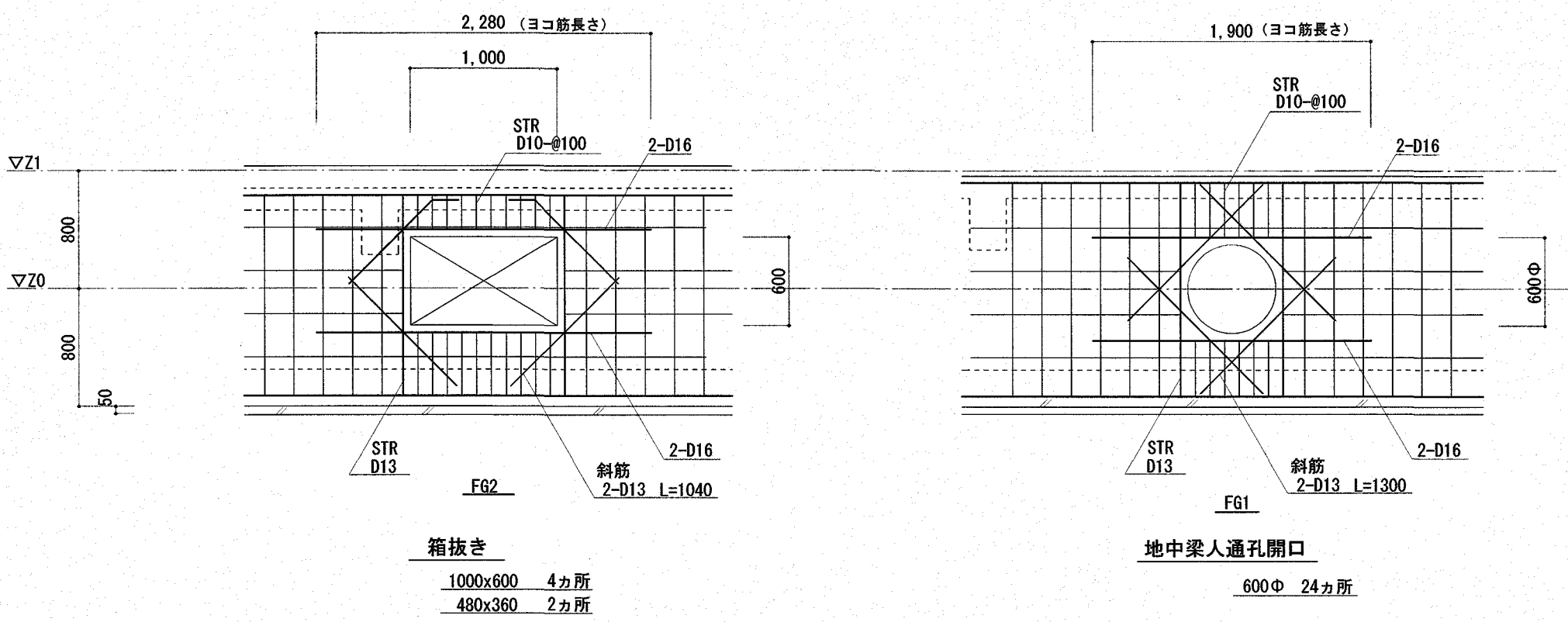


Y7 通り架構詳細図 1:40

Y2 通り架構詳細図 1:40



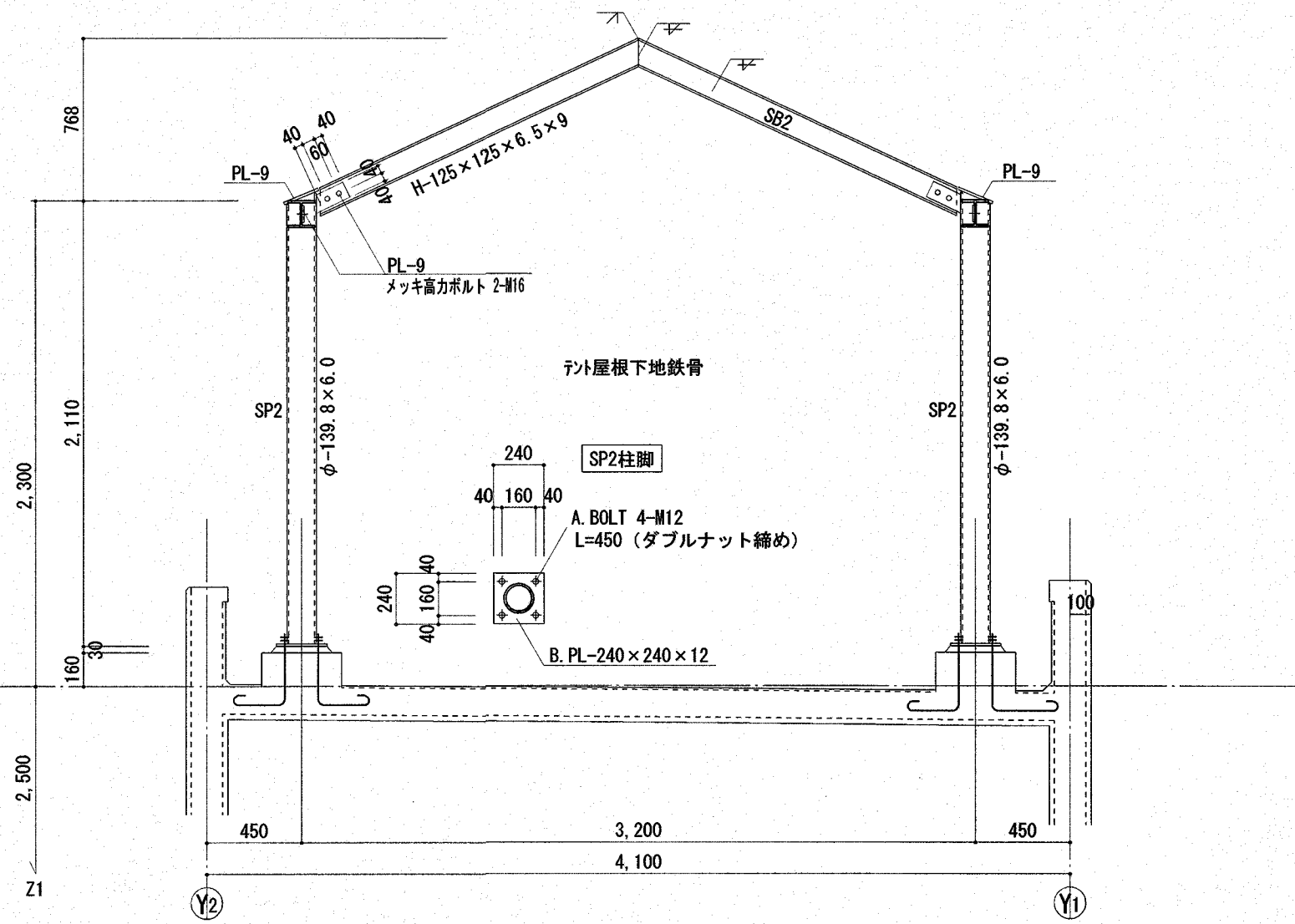
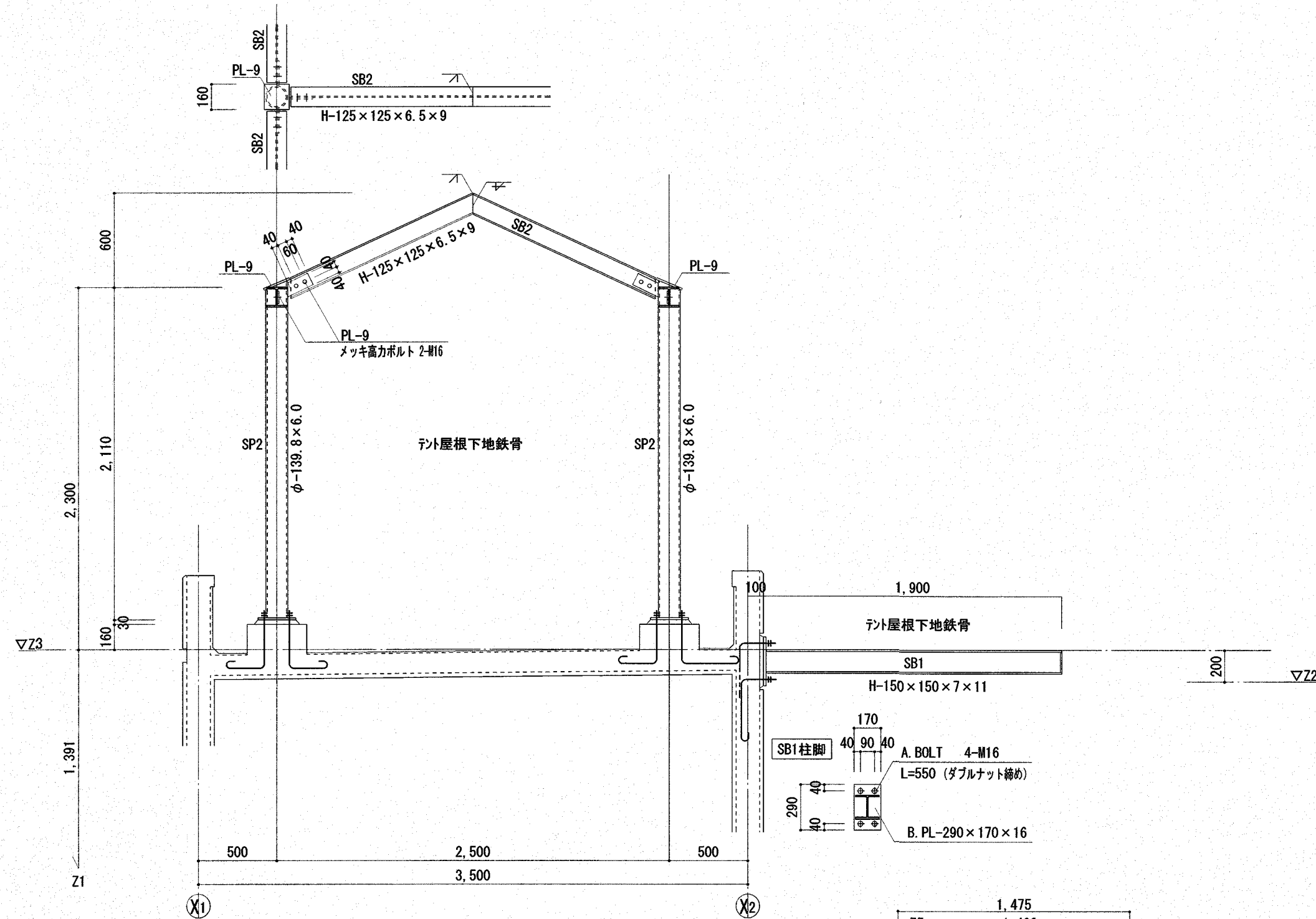
Y1 通り架構詳細図 1:40



箱抜き
1000x600 4ヵ所
480x360 2ヵ所

地中梁人通孔開口
600Φ 24ヵ所

特記	高知市 都市建設部 公共建築課	工事名称 第四小学校プール改築工事	Draw	Check	作成年月日 \$j	株式会社若竹まちづくり研究所	図面番号 B-19
	係長 田部	係長 松本	図面名称 架構詳細図		縮尺 S=1/40	開設者 一級建築士 佐藤八尋 第115410号 管理建築士 一級建築士 小松道就 第223530号	



特記なき限り下記とする。

1. 鋼材	柱	STK400
	梁	SS400
	その他特記なき鋼材	SS400
2. 防錆処理	溶融亜鉛メッキ	

部材リスト

材名	使用鋼材
SP1	□ - 150 × 150 × 6 (STK400)
SP2	φ - 139.8 × 6.0 (STK400)
SB1	H - 150 × 150 × 7 × 10 (SS400)
SB2	H - 125 × 125 × 6.5 × 9 (SS400)

